

## 東京都薬剤師会 平成30年度事業報告

平成30年度は、診療報酬と介護報酬の同時改定とともに、医療介護総合確保方針、保健医療計画、介護保険事業計画、医療保険制度改革など、医療と介護に関する制度の一体改革が行われた。その中で、私たち薬剤師にとって、地域包括ケアシステムの構築に如何に貢献できるかが問われる年であると捉え、制度改革の周知に努めるなど、薬剤師・薬局が時代の変化に的確に対応できるよう事業展開した。

また、「かかりつけ薬剤師・薬局」には、在宅対応を含め、適切な医薬品の供給確保、一般用医薬品などを含めた服薬情報の一元的・継続的な把握とそれに基づく薬学的管理・指導の実施など、都民の日常生活を支えるだけでなく、災害時においてもその機能の発揮が期待されていることから、その要請に応えられるよう注力した。

東京都薬剤師会は、首都としての特徴を活かし、真の意味での医薬分業の実現を念頭に、都民から必要とされる「かかりつけ薬剤師・薬局」を目指した事業展開と、更に、前年度新たに制定された「日本薬剤師会 薬剤師行動規範」を参考に、以下の平成30年度の活動テーマを掲げ、重点事項を定めて会務運営に取り組んだ。

### 【活動テーマ】

#### 薬剤師行動規範に基づく薬剤師の使命の遂行と薬局業務の再点検

### 【重点事項】

- ☆「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬局機能向上と、かかりつけ薬剤師育成事業の継続的な実施並びに、健康サポート薬局等の役割や各種事業の周知
- ☆東京における地域包括ケアシステムの構築に向けた多職種と連携した在宅医療・介護提供体制の運用推進等
- ☆薬局・薬剤師の災害対応力の向上を図るための、災害時薬事活動リーダー研修の開催、防災訓練の参加協力等
- ☆認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づいた薬局実務実習の対応
- ☆2020年に迫る東京オリンピック・パラリンピックを見据え、アンチ・ドーピング活動への協力

これらの事業の他、都民の健康な生活とそれを支える安全・安心な医薬品の使用・供給を確保するため、各事業を行った。

詳細は、以下に記載のとおりである。

## 第1 一般会務報告

1. 会員数 7,063名(平成31年3月31日現在)

【資料1】

### 2. 会議等開催状況

(1) 総会(第93回通常総会、第94回臨時総会)	2回
(2) 総会議事運営委員会	4回
(3) 役員選挙管理委員会	2回
(4) 代議員選挙管理委員会	2回
(5) 東京選挙区日薬代議員打合せ会	2回
(6) 「都薬功労賞」授賞者選考委員会	1回
(7) 賀詞交歓会(平成30年度各賞受賞者祝賀会)	1回
(8) 地区及び職域薬剤師会会长会	11回
(9) 業界紙(誌)共同取材・定例記者会見	11回
(10) 理事会	24回
(11) 会長・業務執行理事打合会	22回
(12) 正副会長打合せ会	6回
(13) 担当役員会	11回
(14) 常置委員会(小委員会含む)	71回
(15) 特別委員会(小委員会含む)	19回
(16) 監事監査会	4回
(17) 顧問・相談役会	2回
(18) 都薬共済会監査会	1回
(19) 薬事衛生自治指導員全体講習会	1回
(20) 薬学講習会	1回
(21) 基準薬局中央研修会	1回
(22) かかりつけ薬剤師研修会	1回
(23) 薬局業務研修会	1回
(24) 臨床薬学講座	3回
(25) 管理薬剤師研修会	4回
(26) 登録販売者研修会	3回
(27) 高度管理医療機器等営業所管理者継続研修会	1回
(28) 医薬分業地区指導者会議	1回
(29) 「実務実習受入薬局」伝達講習会	1回
(30) 薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議	1回
(31) 関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ	6回

(32)認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ	8回
(33)認定実務実習指導薬剤師更新講習会	1回
(34)認定実務実習指導薬剤師更新講習会	1回
(35)東京都薬剤師会 薬局実務実習担当者会議	1回
(36)改訂コアカリに対応した薬局実務実習実施のための説明会	1回
(37)学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当者会議	1回
(38)東京都学校薬剤師会 連絡会	1回
(39)公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会	1回
(40)アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会	1回
(41)禁煙支援薬剤師認定審査会	2回
(42)薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業無菌調製技能習得研修会 （講義・実習）	5回
(43)東京都・中央区・港区合同総合防災訓練	1回
(44)災害時薬事活動リーダー研修	2回
(45)在宅医療・介護地区担当者会議	1回
(46)在宅療養多職種連携研修会	1回
(47)認知症サポート薬剤師e-ラーニング講座 スクーリング	1回
(48)地区薬剤師会が主催する「健康サポート薬局に係る技能習得型研修 『研修会A・B』に関する地区担当者説明会	1回
(49)健康サポート薬局のための技能習得型研修『研修会A』	1回
(50)健康サポート薬局のための技能習得型研修『研修会A』(地域単位)	5回
(51)健康サポート薬局のための技能習得型研修『研修会B』	1回
(52)健康サポート薬局のための技能習得型研修『研修会B』(地域単位)	3回
(53)直扱会員都薬アワード講習会	2回
(54)「かかりつけ薬局育成事業」編集会議	10回
(55)医薬品流通のための連絡協議会	1回
(56)薬・薬連携推進研修会	1回
(57)東京都薬剤師認知症対応力向上研修	2回
(58)臨床推論推進特別委員会公開講座～薬・薬連携シンポジウム～	1回
(59)新規指導薬剤師養成講座	2回

### 3. 役員の公的機関等への参画

#### 【東京都福祉保健局 関連】

東京都医療審議会 : 石垣会長  
東京都薬事審議会 : 石垣会長

東京都国民健康保険運営協議会：石垣会長  
東京都介護保険審査会：大木副会長  
東京都糖尿病医療連携協議会：大木副会長  
東京都災害医療協議会：永田副会長  
東京都救急医療対策協議会：永田副会長  
東京都感染症医療体制協議会：永田副会長  
東京都新型インフルエンザ等対策有識者会議：永田副会長  
東京都保健医療計画推進協議会：永田副会長  
東京都地域医療構想調整部会：永田副会長  
東京都エイズ専門家会議：明石副会長  
東京都健康推進プラン21(第二次)推進会議：一瀬常務理事  
医薬分業に関する協議会：一瀬常務理事  
東京都要保護児童対策地域協議会代表者会議：上野常務理事  
東京都地域医療構想調整会議 区西北部：上野常務理事  
東京都アレルギー疾患対策検討委員会：小野常務理事  
東京都感染症医療体制ブロック協議会 区南部・区西南部：小野常務理事  
東京都地域医療構想調整会議 区南部：小野常務理事  
自殺総合対策東京会議：小野常務理事  
東京都在宅療養推進会議：高松常務理事  
東京都在宅療養推進会議ワーキンググループ：高松常務理事  
東京都特殊疾病対策協議会：高松常務理事  
東京都特殊疾病対策協議会 在宅療養・医療連携支援対策部会：高松常務理事  
東京都感染症医療体制ブロック協議会 区西部・区西北部：高松常務理事  
東京都地域医療構想調整会議 区西部：高松常務理事  
東京都難病対策地域協議会：高松常務理事  
東京都医療安全推進協議会：松本常務理事  
医療情報に関する理解促進委員会：松本常務理事  
東京都結核対策技術委員会：松本常務理事  
東京都食品安全情報評価委員会「健康食品」による健康被害事例専門委員会  
：松本常務理事  
東京都地域医療構想調整会議 北多摩北部：松本常務理事  
東京都高齢者保健福祉施策推進委員会：森田常務理事  
東京都高齢者保健福祉計画策定委員会：森田常務理事  
東京都災害時こころのケア体制(東京DPAT)連絡調整会議：森田常務理事  
災害時における薬剤師班活動マニュアル検討委員会：森田常務理事

東京都障害者差別解消支援地域協議会 : 山田常務理事  
東京都地域医療構想調整会議 西多摩 : 山田常務理事  
外国人患者への医療等に関する協議会 : 山田常務理事  
東京都がん対策推進協議会 : 阿部理事  
東京都がん対策推進協議会「計画推進部会」及び「緩和ケアワーキンググループ」  
: 阿部理事  
東京都がん対策推進協議会「予防・早期発見・教育検討部会」「がん医療検討部会」  
「緩和ケア検討部会」「相談・情報検討部会」「小児がんワーキンググループ」  
: 阿部理事  
精神疾患地域医療連携協議会 : 阿部理事  
東京都地域医療構想調整会議 北多摩南部 : 阿部理事  
東京都地域医療構想調整会議 区西南部 : 佐藤理事  
東京都地域医療構想調整会議 南多摩 : 関根理事  
南多摩地域保健医療協議会 : 関根理事  
東京都大気汚染医療費助成制度検討委員会 : 龍岡理事  
東京都感染症医療体制ブロック協議会 区中央部・区東北部 : 龍岡理事  
東京都地域医療構想調整会議 区中央部 : 龍岡理事  
東京都社会福祉審議会臨時委員(身体障害者福祉分科会) : 西澤理事  
東京都地域医療構想調整会議 区東北部 : 西澤理事  
東京都災害時こころのケア体制(東京 DPAT)連絡調整会議作業部会 : 根本理事  
東京都地域医療構想調整会議 北多摩西部 : 根本理事  
東京都地域医療構想調整会議 区東部 : 濱野理事

#### 【東京都病院経営本部】

東京都保健医療公社評議員 : 永田副会長  
東部地域病院運営協議会 : 西澤理事  
東京都都立墨東病院運営協議会 : 濱野理事  
東京都立東部療育センター運営協議会 : 濱野理事

#### 【東京都総務局】

東京都防災対策推進ワーキンググループ(危機管理対策・ソフト対策) : 永田副会長

#### 【青少年治安対策本部】

東京都子供応援協議会 : 石垣会長、上野常務理事  
中学生の職場体験推進協議会 : 上野常務理事

## 【関連団体】

一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問

：石垣会長

第5回日本医薬品安全性学会学術大会組織委員：石垣会長

東京都医師会 東京都糖尿病対策推進会議：大木副会長

東京都国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員会：大木副会長

高齢者医薬品適正使用ガイドライン作成ワーキンググループ：大木副会長

関東信越地方保険医療協議会臨時委員：永田副会長

社会保険診療報酬支払基金東京支部幹事会参与：永田副会長

東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会学識経験者審査委員選考協議会

：永田副会長

東京都保険者協議会：永田副会長

東京都医師会 地域包括ケア委員会：上野常務理事

東京都医師会 東京都多職種連携連絡会：上野常務理事

OTC医薬品普及啓発イベント

「よく知って、正しく使おうOTC医薬品」実行委員会：小野常務理事

日本薬学会関東支部市民講座企画委員：小野常務理事

区西部緩和ケア推進事業運営委員会：高松常務理事

日本薬剤師研修センター研修認定制度委員：松本常務理事

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構：山田常務理事

公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センター理事：山田常務理事

東京都後期高齢者医療懇談会：龍岡理事

東京都医師会 タバコ対策委員会：龍岡理事

以上のとおり、会長はじめ各役員は本会執行部として業務の遂行に努めるとともに、東京都の審議会・協議会等の公的機関さらには社会保険・国民健康保険等の委員として、それぞれの機関の運営に参画し、薬剤師職能の充実に努めた。

## 第2 事業活動の概要

### 1. 薬剤師行動規範並びに薬事・医療関連法規の趣旨の周知徹底

一般用医薬品等の適正使用の推進及び会員に対する供給体制整備の周知・徹底を図るため、医薬品医療機器等法改正の動向に対応した資料を作成し配布すると共に各種講習会(薬事衛生自治指導員全体講習会、基準薬局中央研修会、地区薬剤師研修会、管理薬剤師研修会、高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会)など、機会を捉え情報発信に努めた。また同様に薬剤師としての倫理及び薬事・医療関連法規の趣旨の周知を図った。

### 2. 薬剤師職能及び薬局機能対策

#### 2-1 薬剤師資質向上対策(薬学振興対策)

##### (1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施

医薬品の適正使用のみならず公衆衛生の向上及び健康な生活の確保ための情報提供や相談窓口となるなど「かかりつけ薬局」及び「かかりつけ薬剤師」の定着を図ることを目的に平成12年度以来毎年「かかりつけ薬剤師研修会(平成28年度までの研修会名称は「かかりつけ薬局研修会」)を開催している。

##### 【かかりつけ薬剤師研修会】

平成30年度当会の各種研修会は、「薬剤師行動規範に基づく薬剤師の使命の遂行と薬局業務の再確認」を活動テーマとし、かかりつけ薬剤師研修会を下記のとおり開催した。

期 日：平成30年11月11日(日) 12:30～16:00

場 所：よみうりホール

受講者：939名(内、会員外 46名)

内 容：

挨拶

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

最近の薬務行政について

薬局・薬剤師を取り巻く最近の動き～薬局機能情報提供制度の変更点等～

東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明

プレアボイド～現場で活躍する薬剤師の実例報告～

日本医科大学武藏小杉病院 薬剤部長 笠原 英城

ポリファーマシー対策～在宅医療における薬とケアの最適化プロセス～

医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長 高瀬 義昌

## (2) 禁煙支援薬剤師認定制度の推進

平成 23 年 10 月より、e-ラーニングを活用した都薬独自の禁煙支援薬剤師認定制度の運用を開始し、平成 31 年 3 月末時点で 354 名の受講申込があった。また、平成 30 年 8 月に第 14 回、平成 31 年 2 月に第 15 回認定審査会を開催し、これまでに禁煙支援薬剤師として計 84 名を認定した。

## (3) e-ラーニングの利用を含めた都薬独自の生涯学習プログラムの検討

平成 27 年から禁煙支援薬剤師認定制度に続く生涯学習プログラムとして、「認知症サポート薬剤師 e-ラーニング講座」を都薬ホームページ上で運営している。

これまでに、さらに学びを深め、認知症サポーターとしての知識を習得することを目標としたスクーリングを 3 回実施している。平成 30 年度も e-ラーニング受講終了者を対象としたスクーリングを開催し、一般・会員合わせ 30 名に修了証を発行した。

### 【平成 30 年度 認知症サポート薬剤師 面接授業(e-ラーニング講座スクーリング)】

期 日: 平成 30 年 6 月 3 日(月) 12:30~16:40

場 所: 慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 2 号館 4 階 460 大講義室

受講者: 30 名

内 容:

開講挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 松本 有右

第 1 部 講義・グループ討論と発表

認知症サポート養成講座(講義)

成年後見制度・「薬剤師としての認知症サポーターとは」

キャラバンメイト／東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員長 斎藤 公子

グループ討議 I ・全体発表

司会進行: 東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 高田めぐみ

【テーマ】「認知症(疑いのある)ご本人や家族、他職種と対応する上で

印象に残っていること」

第 2 部 講演・グループ討論と発表

講演「もしかして認知症?

認知機能低下と診断された私が、どう向き合い、どう取り組んだか」

日本認知症本人ワーキンググループメンバー: 中村 とみ

パートナー・看護師: 柏木 とき江

グループ討議 II ・全体発表

司会進行: 東京都薬剤師会 生涯学習委員会 委員 佐藤 博之

【テーマ】「認知症(疑いのある)ご本人や家族、他職種に対して、薬剤師として、  
もっとできること。してみたいこと。」

講師への質疑

決意表明「明日から取り組むこと」(グループ内発表)

修了証授与(修了証授与人数:30名)・閉講挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 松本 有右

(4)日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)の利用推進

平成24年4月より、日本薬剤師会生涯学習支援システム(JPALS)がスタートした。平成26年5月には、JPALSのポートフォリオ(実践記録)の記載をより容易とするために「実践記録シート」を作成して都薬ホームページ上に掲載し、地区薬剤師会にもその活用を促している。本会で開催する主な講習会においては、プログラム等にJPALSコードを記載し、また、「実践記録シート」を配布するなど、JPALS利用者の利便を図るよう努めた。

(5)薬学講習会等各種講習会の開催

①臨床薬学講座の開催

平成30年度の臨床薬学講座は、平成29年度に引き続き少人数による実習中心の研修会を3回開催した。

【第1回臨床薬学講座】

期日:平成30年7月1日(日) 12:00~17:40

場所:昭和大学旗の台キャンパス 16号館3階講義室

受講者:32名

内容:テーマ「薬剤師に必要なフィジカルアセスメントの考え方と実践」

<講義>

薬剤師のためのフィジカルアセスメント

東京医科大学病院 総合診療科 臨床教授 平山 陽示

薬局薬剤師がフィジカルアセスメントを学ぶ意義

品川薬剤師会 会長 加藤 肇

<実習>

疾患シミュレーターを用いたフィジカルアセスメント研修

昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 医薬品評価薬学部門

准教授 亀井 大輔

助教 滝 伊織  
助教 村瀬 札美

### 【第2回臨床薬学講座】

期 日：平成30年10月14日(日) 13:00～17:00

場 所：都薬会館 3階会議室

受講者：30名

内 容：テーマ「嚥下機能評価を薬学的管理につなげるには」

#### <講義>

頸部聴診法と嚥下スクリーニング検査について

仁厚会病院 口腔外科 口腔リハビリテーション部門長 横山 薫

簡易懸濁法について 東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男

東京有隣会 有隣病院 薬剤科 主任 奥野 靖隆

#### <実習>

医師が実践している嚥下機能評価の理解について

半固形状流動食の作り方及び簡易懸濁法について

東京都薬剤師会 学術委員会 副委員長 近藤 幸男

東京有隣会 有隣病院 薬剤科 主任 奥野 靖隆

### 【第3回臨床薬学講座】

期 日：平成31年2月3日(日) 13:00～17:00

場 所：都薬会館 3階会議室

受講者：19名

内 容：テーマ「基本的な「褥瘡」ケアを体験しよう

－在宅医療で役立つ「褥瘡」の病態と薬剤・被覆材の選び方－

褥瘡の病態と薬剤選択の考え方

NTT東日本関東病院 皮膚科主任医長 出月 健

#### <講義>

創傷被覆材の選び方

NTT東日本関東病院 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 近藤 晃代

#### <実習>

褥瘡のスキンケアと処置の実際について

NTT東日本関東病院 看護部 皮膚・排泄ケア認定看護師 近藤 晃代

スマス・アンド・ネフュー株式会社

マーケティング・クリニカルスペシャリスト 種 真理

## <総括>

### 褥瘡治療における薬剤師の役割

東京医科大学病院 薬剤部 褥瘡学会認定薬剤師 関根 祐介

## ②薬学講習会の開催

平成 30 年度は、慢性腎臓病(CKD)をテーマに薬学講習会を下記のとおり開催し、多数の会員の参加を得た。なお、薬局における医療安全管理については、保険薬局における医療安全について講演が行われた。

### 【薬学講習会】

期 日：平成 30 年 8 月 26 日(日) 14:00～17:10

場 所：東京国際フォーラム ホールA

受講者：1,673 名(うち会員外 163 名)

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

かかりつけ薬剤師・薬局の推進に向けた都の取組等

東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課

事業連携担当 課長代理 阿部 朋弘

薬剤師の CKD への関わり～超高齢者薬物療法に対処せよ！～

熊本大学薬学部附属 育薬フロンティアセンター長

臨床薬理学分野教授 平田 純生

医療安全管理講座/保険薬局における医療安全について

日本薬剤師会 常務理事 島田 光明

## ③基準薬局中央研修会の開催

下記により平成 30 年度基準薬局中央研修会を開催した。

### 【基準薬局中央研修会】

期 日：平成 30 年 7 月 22 日(日) 12:30～16:10

場 所：文京シビックホール 大ホール

受講者：1,350 名(内、会員外 51 名)

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

薬剤師行動規範について～これからの薬剤師のあるべき姿～

日本薬剤師会 会長 山本 信夫

かかりつけ薬剤師に必要な！風邪の臨床推論と抗菌薬適正使用

【前編】－適正使用にむけた“世界”の流れと“日本”的現状－

(一社) Sapporo Medical Academy 代表理事 岸田 直樹  
かかりつけ薬剤師に必要な！風邪の臨床推論と抗菌薬適正使用

【後編】一風邪の臨床推論：各論＋実際どうする？患者対応・紹介状一

(一社) Sapporo Medical Academy 代表理事 岸田 直樹

#### (6)認定実務実習指導薬剤師の養成及び

##### 改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応

薬学教育 6 年制課程における長期実務実習を適切に実施するため、受入施設及び学生を指導する指導者の資質向上と確保が重要であるとの認識のもと、安定した受入れ体制の維持を図ることを目的に、今年度も本会では、(一社)薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構をはじめとする種々の教育関連機関と連携して事業を遂行した。

平成 31 年 2 月より開始される改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム(以下、改訂コアカリ)に基づく実務実習の円滑な実施に向けて、学習成果基盤型教育(Outcome-Based Education、以下「OBE」)に基づく認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)と、既に認定を取得した認定実務実習指導薬剤師を対象とした、OBE 修得のためのアドバンストワークショップを今年度も引き続き実施する旨等に関する薬学教育協議会からの協力依頼を受け、本会では、ブロック単位での開催を推進する関東地区調整機構の計画に基づき、「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」4 回、「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」10 回を、関東地区調整機構や関東地区の各県薬剤師会・都県病院薬剤師会との共催で下記のとおり開催した。

また、関東地区調整機構からの協力依頼を受け、関東地区 1 都 9 県合同の「第 9 回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ」にタスクフォース 2 名と受講者 7 名を、「第 33 回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」にタスクフォース 2 名を派遣した。これにより平成 17 年度より実施された認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(薬学教育者ワークショップ)への本会会員薬局からの受講者数は今年度までに延べ 2,011 名となった。

昨年度に引き続き、本会が運営事務局を務める平成 30 年度 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップにおいても、実習時のトラブルを事前に回避することを目的として本会が作成したリーフレット「薬局実習におけるハラスマント対策(2015 年度改訂版)」を資料として受講者に配布した。

OBE の理念に基づいた実務実習の在り方及びこれに基づいたカリキュラムプランニングの技法を修得する目的で行われる「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」には、今年度、本会会員薬局から 269 名、東京都病院薬剤師会から 150 名の認定実務実習指導薬剤師が参加し、研修を修了した。これにより平成 27 年度より実施された「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ」への本会会

員薬局からの修了者数は今年度までに延べ 803 名となった。

(公財)日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領に基づく、「認定実務実習指導薬剤師」の認定要件となる講習会形式の研修講座①②③を下記のとおり開催した。薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂及び講義 DVD の適用状況を踏まえ、新しく構成された講座①②③のうち、講座②と講座③-2 を本会では講師による座学講習で実施した。

認定実務実習指導薬剤師の認定期間 6 年を満了する薬剤師を対象とした更新講習会(講座④)については、下記のとおり開催した。

本会では、ほぼ全ての大学において平成 30 年度実務実習第 I 期から改訂コアカリに準拠した実務実習を想定した「トライアル実習(実務実習先行導入)」を実施するための準備が整っている状況であることを受け、OBE の考え方に基づいた実務実習の評価(概略評価)が、大学と実習施設との連携の下で円滑に行われることを目的に、各地区の実務実習担当者と大学の薬局実務実習担当教員を対象とした「薬局実務実習担当者会議」を下記のとおり開催した。

また、本会では、都内の全受入施設において改訂コアカリに基づく実務実習が円滑に開始されることを目的に、「改訂コアカリに対応した薬局実務実習実施のための説明会」を下記のとおり開催した。本説明会では、実務実習受入れが決定している薬局の全指導薬剤師と関東地区大学の薬局実務実習担当教員を対象に、日本薬剤師会編「薬局実務実習指導の手引き 2018 年版 改訂モデル・コアカリキュラム対応」を用いた実務実習指導の進め方や、実務実習記録による評価について解説した。

### 【第 1 回関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のための

#### アドバンストワーカーショップ(東京 第 1 回)】

期 日 : 平成 30 年 4 月 29 日(日・祝) 9:00 ~ 20:10

平成 30 年 4 月 30 日(月・振) 8:45 ~ 18:00

場 所 : 帝京大学 板橋キャンパス

大学棟 3 階 301~303 講義室、大学棟 4 階 404 講義室

共 催 : 埼玉県薬剤師会・千葉県薬剤師会・東京都薬剤師会・神奈川県薬剤師会

日本薬剤師研修センター・薬学教育協議会・

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント : 世田谷区保健センター 中島 宏昭

ディレクター : 関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

帝京大学 薬学部長 栗原 順一、

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

チーフタスクフォース : 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

タスクフォース：埼玉県薬剤師会・病院薬剤師会 5名

千葉県薬剤師会・病院薬剤師会 4名

神奈川県薬剤師会 4名、帝京大学薬学部 1名

東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 5名

受講者：54名(2P6S)のうち本会より 8名(東京都病院薬剤師会 4名)

※同日程にて第2回養成ワークショップを開催したため、4都県薬剤師会・病院薬剤師会からのタスクフォース並びに受講者を混成して実施した。

#### 【第2回関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師のための

##### アドバンストワークショップ(東京 第2回)】

期 日：平成30年4月29日(日・祝) 9:00～20:10

平成30年4月30日(月・振) 8:45～18:00

場 所：帝京大学 板橋キャンパス 大学棟4階 401～404 講義室

共 催：埼玉県薬剤師会・千葉県薬剤師会・東京都薬剤師会・神奈川県薬剤師会

日本薬剤師研修センター・薬学教育協議会・

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

帝京大学 薬学部長 栗原 順一

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：千葉県薬剤師会 理事 杉山 宏之

タスクフォース：埼玉県薬剤師会・病院薬剤師会 4名、

千葉県薬剤師会・病院薬剤師会 4名、

神奈川県薬・病院薬剤師会 4名

東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7名

受講者：54名(2P6S)のうち本会より 8名(東京都病院薬剤師会 4名)

#### 【第4回関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

期 日：平成30年7月15日(日) 9:00～20:30

平成30年7月16日(月・祝) 9:00～18:00

場 所：昭和薬科大学 第2講義棟

共 催：東京都薬剤師会・神奈川県薬剤師会・日本薬剤師研修センター・

薬学教育協議会・薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭

ディレクター：昭和薬科大学 学長 山本 恵子  
神奈川県薬剤師会 副会長 橋本 真也  
チーフタスクフォース：神奈川県薬剤師会 理事 久保田 充明  
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 10名  
神奈川県薬・病院薬剤師会 9名  
受講者：54名(2P6S)のうち本会より 15名(東京都病院薬剤師会 9名)

#### 【第5回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

期 日：平成30年9月16日(日) 9:00～20:30  
平成30年9月17日(月・祝) 9:00～18:15  
場 所：帝京平成大学 中野キャンパス 4階  
共 催：茨城県薬剤師会・東京都薬剤師会・山梨県薬剤師会・長野県薬剤師会・  
日本薬剤師研修センター・薬学教育協議会・  
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭  
ディレクター：薬学教育協議会 代表理事 本間 浩  
関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦  
帝京平成大学 薬学部長 安西 健二郎  
帝京平成大学 薬学部 実務実習委員会委員長 清野 敏一  
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一  
タスクフォース：茨城県薬剤師会・病院薬剤師会 4名  
東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員  
及び東京都病院薬剤師会 9名  
山梨県薬剤師会 4名、長野県薬剤師会・病院薬剤師会 4名  
受講者：54名(2P6S)のうち本会より 7名(東京都病院薬剤師会 5名)

※同日程、同会場4階にて第6回養成ワークショップを開催したため、4都  
県薬剤師会・病院薬剤師会からのタスクフォース並びに受講者を混成して  
実施した。

#### 【第6回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

期 日：平成30年9月16日(日) 9:00～20:30  
平成30年9月17日(月・祝) 9:00～18:15  
場 所：帝京平成大学 中野キャンパス 4階  
共 催：茨城県薬剤師会／東京都薬剤師会・山梨県薬剤師会・長野県薬剤師会・

日本薬剤師研修センター・薬学教育協議会・  
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭  
ディレクター：薬学教育協議会 代表理事 本間 浩、  
関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦  
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一  
タスクフォース：茨城県薬・病院薬剤師会 2名  
東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員  
及び東京都病院薬剤師会 8名  
山梨県薬剤師会・病院薬剤師会 5名  
長野県薬剤師会・病院薬剤師会 4名  
関東地区調整機構 1名  
受講者：54名(2P6S)のうち本会より 8名(東京都病院薬剤師会 4名)

#### 【第8回 関東地区調整機構主催 認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ】

期 日：平成30年11月3日(土・祝) 9:00～20:30  
平成30年11月4日(日) 9:00～18:10  
場 所：慶應義塾大学 薬学部 芝共立キャンパス  
共 催：茨城県薬剤師会・東京都薬剤師会・日本薬剤師研修センター・  
薬学教育協議会・薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
コンサルタント：世田谷区保健センター 中島 宏昭(ビデオ)  
ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦  
東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一  
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一  
タスクフォース：茨城県薬剤師会・病院薬剤師会 7名  
東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員  
及び東京都病院薬剤師会 15名  
受講者：54名(2P6S)のうち本会より 15名(東京都病院薬剤師会 9名)

#### 【第4回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための

##### アドバンストワークショップ(東京 第3回)】

期 日：平成30年5月27日(日) 9:00～18:00  
場 所：昭和薬科大学 第2講義棟  
共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
ディレクター兼タスクフォース：昭和薬科大学臨床薬学教育センター長 宮崎 美子  
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会実務実習委員会 委員 浅井 和範  
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 8名  
帝京大学薬学部 1名  
受講者：62名(2P6S)  
受講者内訳：各地区薬剤師会 37名、東京都病院薬剤師会 19名、都内大学 6名

【第6回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための  
アドバンストワークショップ(東京 第4回)】  
期 日：平成30年5月27日(日) 9:00～18:00  
場 所：帝京平成大学 中野キャンパス 4階  
共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・  
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
ディレクター兼チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 10名  
帝京大学薬学部 1名  
受講者：60名(2P6S)  
受講者内訳：各地区薬剤師会 37名、東京都病院薬剤師会 17名、都内大学 6名

【第9回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための  
アドバンストワークショップ(東京 第5回)】  
期 日：平成30年6月3日(日) 9:00～18:00  
場 所：星薬科大学 新星館2階 201～204 講義室  
共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・  
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
ディレクター：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 輿水 淳  
タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7名、  
東京都病院薬剤師会 1名、星薬科大学 1名  
受講者：56名(2P6S)  
受講者内訳：各地区薬剤師会 33名、東京都病院薬剤師会 17名、都内大学 6名

【第10回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための  
アドバンストワークショップ(東京 第6回)】

期 日：平成 30 年 6 月 3 日(日) 9:00 ~ 18:00

場 所：星薬科大学 新星館 2 階 206~209 講義室

共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・

　　薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター兼タスクフォース：東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 田極 淳一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 3 名、

　　東京都病院薬剤師会 1 名、帝京大学薬学部 1 名、星薬科大学 2 名

受講者：57 名(2P6S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 34 名、東京都病院薬剤師会 17 名、都内大学 6 名

#### 【第 11 回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための

アドバンストワークショップ(東京 第 7 回)】

期 日：平成 30 年 6 月 3 日(日) 9:00 ~ 18:00

場 所：武蔵野大学 有明キャンパス 1 号館 5 階 503~507 教室

共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・

　　薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 高松 登

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7 名、

　　東京都病院薬剤師会 1 名

受講者：55 名(2P6S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 32 名、東京都病院薬剤師会 18 名、都内大学 5 名

#### 【第 13 回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための

アドバンストワークショップ(東京 第 8 回)】

期 日：平成 30 年 7 月 1 日(日) 9:00 ~ 18:00

場 所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 2 号館 1 階 講義室

共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・

　　薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 高松 登

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 8 名、

　　東京都病院薬剤師会 1 名

受講者：58 名(2P6S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 30 名、東京都病院薬剤師会 23 名、都内大学 5 名

**【第 14 回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための**

**アドバンストワークショップ(東京 第 9 回)】**

期 日：平成 30 年 7 月 1 日(日) 9:00 ~ 18:00

場 所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 4 階 大講義室・会議室

共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・

　　薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター長 中村 智徳

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 7 名、

　　東京都病院薬剤師会 2 名

受講者：59 名 (2P6S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 28 名、東京都病院薬剤師会 25 名、都内大学 6 名

**【第 21 回 関東地区調整機構 認定実務実習指導薬剤師のための**

**アドバンストワークショップ(東京 第 10 回)】**

期 日：平成 30 年 8 月 5 日(日) 9:00 ~ 18:00

場 所：武藏野大学 有明キャンパス 1 号館 5 階 503~507 教室

共 催：東京都薬剤師会・薬学教育協議会・

　　薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

ディレクター：関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

チーフタスクフォース：東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

タスクフォース：東京都薬剤師会 実務実習委員会 担当役員・委員 10 名、

　　東京都病院薬剤師会 1 名

受講者：57 名 (2P6S)

受講者内訳：各地区薬剤師会 38 名、東京都病院薬剤師会 14 名、都内大学 5 名

**【認定実務実習指導薬剤師 養成講習会】**

期 日：平成 30 年 4 月 8 日(日) 10:00 ~ 16:00

場 所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 1 号館 マルチメディア講堂

共 催：東京都薬剤師会・日本薬剤師研修センター・

　　薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構

受講者：174 名

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
講座①「薬剤師の理念」（ビデオ）  
講座②-1 「平成 25 年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」  
講座②-2 「薬学実務実習に関するガイドライン」  
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
講座③-1 「学生の指導(法的問題)」（ビデオ）  
講座③-2 「学生の指導(OBE に基づいた薬局実務実習の進め方)」  
東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一  
講座③-3 「学生の指導(改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム  
に準拠した病院実習)」（ビデオ）

#### 【認定実務実習指導薬剤師 更新講習会】

期 日：平成 30 年 11 月 4 日（日） 10:00 ~ 12:15  
場 所：慶應義塾大学薬学部 芝共立キャンパス 1 号館 マルチメディア講堂  
共 催：東京都薬剤師会・日本薬剤師研修センター・  
薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構  
受講者：64 名  
内 容：  
開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
講座①「薬剤師の理念」（ビデオ）  
講座④(更新講習)薬学教育モデル・コアカリキュラム及び  
薬学実務実習に関するガイドライン  
④-1 「平成 25 年度改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム」（ビデオ）  
④-2 「薬学実務実習に関するガイドライン」（ビデオ）

#### 【第 2 回 方略を見直した試行的実習実施のための説明会】

期 日：平成 29 年 8 月 5 日（土） 18:45~20:45  
場 所：渋谷区文化総合センター大和田 さくらホール  
出席者：262 名  
各地区エリア受入施設の指導薬剤師等 244 名、  
東京都内 11 大学のうち 9 大学※の薬局実務実習担当教員 15 名、  
日本保険薬局協会 3 名  
※参加大学：北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、  
帝京大学、帝京平成大学、東京薬科大学、星薬科大学、武藏野大学  
内 容：

改訂コアカリで求められる実務実習に向けてー『改訂版手引き』を利用した  
実習の進め方ー 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一  
薬学実務実習に関する連絡会議で示された実務実習実施計画書・評価の観点  
について 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
現行の実務実習モデル・コアカリキュラムに基づく評価について  
東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造  
方略を見直した試行的実習の実施に関する質疑応答  
閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

#### 【薬局実務実習担当者会議】

期 日：平成 30 年 4 月 7 日(土) 18:00 ~ 20:00  
場 所：日本教育会館 8 階 第 2 会議室  
出席者：101 名  
出席者内訳：各地区の実務実習エリア責任者・実務実習担当者 56 名、  
東京都薬剤師会 役員 6 名、実務実習委員会委員 13 名、  
関東地区調整機構運営委員 1 名、  
関東地区 23 大学のうち 18 大学※の薬局実務実習担当教員 25 名  
※参加大学：国際医療福祉大学、城西大学、城西国際大学、  
千葉科学大学、千葉大学、東京理科大学、東邦大学、日本大学、  
北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、帝京大学、  
帝京平成大学、東京薬科大学、星薬科大学、武藏野大学、横浜薬科大学

#### 内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一  
トライアル実習の進め方と概略評価の基準・評価方法について  
東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一  
平成 30 年度 実務実習先行導入 紙面評価について  
関東地区調整機構 運営委員会 委員 小佐野博史  
薬局実務実習受入に関する伝達事項について  
東京都薬剤師会 常務理事 高松 登  
質疑応答  
閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

#### 【改訂コアカリに対応した薬局実務実習実施のための説明会】

期 日：平成 30 年 10 月 21 日(日) 10:00 ~ 12:25  
場 所：星薬科大学 本館メインホール

受講者：349名

受講者内訳：各地区の実務実習エリア責任者・担当者 及び

受入施設の指導薬剤師等 319名

関東地区 23 大学のうち 21 大学※の薬局実務実習担当教員 30 名

※参加大学：国際医療福祉大学、城西大学、日本薬科大学、  
城西国際大学、千葉科学大学、千葉大学、東京理科大学、東邦大学、  
日本大学、北里大学、慶應義塾大学、昭和大学、昭和薬科大学、  
帝京大学、帝京平成大学、東京薬科大学、星薬科大学、武藏野大学、  
明治薬科大学、横浜薬科大学、新潟薬科大学

内 容：

開会の挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

改訂コアカリに対応した概略評価に向けて

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

業務に沿った薬局実務実習指導の進め方と概略評価について

～薬局実務実習指導の手引きの使い方～

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 猿橋 裕子

実務実習記録による評価方法(実習日誌等による評価)について

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 田極 淳一

質疑応答

閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

#### (7) 地区薬剤師研修会への支援と都薬アワーの実施

都内 28 地区ごとに、薬局薬剤師を対象に年 2 回の研修会を実施した。研修は都薬アワー、臨床薬学講習、社会保険講習を中心に実施され、都薬アワーに講師を派遣とともに開催経費の助成を行った。第 1 回目の都薬アワーでは、本会の平成 30 年度活動テーマ「薬剤師行動規範に基づく薬剤師の使命の遂行と薬局業務の再点検」を基に「日本薬剤師会薬剤師行動規範・同解説の制定について」、を演題として、薬剤師行動規範 15 項目について項目毎の説明を行った他、薬局機能情報提供制度の実施要項の変更、改正の主旨等の解説を行った。また、第 2 回地区薬剤師研修会では、「ICT を活用した医療情報連携ネットワーク構築の今後の方向性について」、「薬事関係法規教本 2018 年版について」及び「『健康食品』に関する安全性情報共有事業」をテーマとして、現在進行中の ICT 施策(医療等専用ネットワーク構想、電子お薬手帳相互リンク、オンライン診療と遠隔服薬指導等)の制度の現状について説明するとともに、薬機法への改正についての解説を行った。その際、統一テキストや配布資料を作成して研修を行った。

臨床薬学講習では主に生活習慣病や在宅医療、多職種連携について学習し今後の医療連携についての意識の向上を図った。

開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料2】のとおりである。

また、今年度は直扱会員を対象に都薬アワーを中心とした研修会を2度開催した。平成30年9月13日に開催した第1回直扱会員都薬アワーでは26名、平成31年3月14日に開催した第2回では36名の直扱会員が受講した。

## 2-2 薬局機能の充実対策

### (1)健康サポート薬局へ向けた、かかりつけ薬局育成事業の実施

(2-1 (1)「患者のための薬局ビジョン」を踏まえた、かかりつけ薬剤師育成事業の実施の項を参照)

### (2)基準薬局認定制度の見直し

制度発足以来、基準薬局制度は薬局並びに薬剤師の医薬分業推進活動の基盤を担ってきたが、日薬は平成27年3月末日をもって基準薬局制度を発展的に解消した。しかし、当会では、これまで日薬の基準に加え独自の基準を定めて、基準薬局中央研修会等を開催し、会員薬局に対して認定取得の推進、指導を行ってきた。また、地域医療に貢献できる医療提供施設としての標準的な薬局の姿を社会に示し推進していくことは、これからも大変重要であると考えられるため、今後も当会として基準薬局制度を堅持していくこととした。「薬局の求められる機能とあるべき姿」に対応した認定基準により、昨年度認定を行ったところである。今年度は、更新中間期にあたるため、新たに申請のあった5薬局の認定を行ったが、6薬局の退会等があったため最終的に基準薬局認定数は621薬局となった。

また、平成30年度基準薬局中央研修会を開催した(2-1(5)③「平成30年度基準薬局中央研修会の開催」の項を参照)。

### (3)実務実習受入れ態勢の整備

実務実習受入れ態勢整備の強化を図るため、各地区の実務実習エリア責任者・担当者を対象に、下記のとおり「薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議」を開催した。

本会議では、昨年度導入された薬局割振りに関する各エリアからの意見を踏まえた2020年度実務実習受入施設調査の変更点や注意事項について解説した。

また、エリア内で改訂薬学教育モデル・コアカリキュラム(以下、改訂コアカリ)に対応した実務実習が適切に実施され、さらに実務実習の質の向上を図るため、大学における学習内容と臨床準備教育等を紹介するとともに、実習施設においてより良い実習を実

施するためにエリアが果たす役割を再確認した。

改訂コアカリに対応した実務実習の第Ⅰ期が2019年2月から開始されることを受け、開催時期を例年より早めた日程で、平成31年度(2019年度)に薬局実務実習受入れが決定している施設の指導薬剤師を対象とした「実務実習受入薬局伝達講習会」を下記のとおり開催した。

本講習会では薬学生を受入れるに当たり、各エリアや受入薬局で行う準備や注意事項の伝達を行うとともに、改訂コアカリに対応した実務実習を適切かつ効果的に実施するための参考として、概略評価に基づいた継続的な経験学習に関する説明及びWEBシステムを利用した評価の概略などについて解説した。本講習会では「6年制薬局実習の受入薬局に対する日本薬剤師会の基本的な考え方」の遵守と、薬局業務の実践の中で学ぶ実習の実施を本会の基本方針とすることを示した。

本講習会へは、平成31年度(2019年度)薬局実務実習受入薬局の指導薬剤師をはじめ、各地区の実務実習エリア責任者やエリア担当者、並びに各大学との情報共有を図る目的で関東地区23大学の薬局実務実習担当教員を招き、伝達した。

#### 【薬局実務実習受入のためのエリア担当者会議】

期 日：平成31年3月2日(土) 18:30～20:20

場 所：エッサム神田ホール 2号館 4階大会議室

出席者：各地区の実務実習エリア責任者・担当者 59名

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

関東地区的実務実習の現状と調整機構からのお願い

関東地区調整機構 委員長 伊東 明彦

2020年度 薬局実習受入施設調査 及び 伝達事項について

東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

今後のエリアのあり方～実務実習の質を高めるために～

1) 臨床準備教育の内容と実習生の情報の実習施設と大学との共有

—武藏野大学 薬学部の取り組み—

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員 小清水治太

2) エリアが果たす役割～より良い実習を行う為の環境整備～

東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 猿橋 裕子

質疑応答

閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 高松 登

#### 【「平成31年度(2019年度)実務実習受入薬局」伝達講習会】

期　日：平成 31 年 1 月 27 日(日) 9:00 ~ 11:30

場　所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：419 名

受講者内訳：各地区の平成 31 年度実務実習受入施設の指導薬剤師等 388 名、

　　関東地区 23 大学のうち 19 大学※の薬局実務実習担当教員 31 名

※参加大学：城西大学、日本薬科大学、城西国際大学、千葉科学大学、  
千葉大学、東京理科大学、東邦大学、北里大学、慶應義塾大学、  
昭和大学、昭和薬科大学、帝京大学、帝京平成大学、東京大学、  
東京薬科大学、星薬科大学、明治薬科大学、横浜薬科大学、  
新潟薬科大学

内　容：

開会挨拶／改訂コアカリに基づいた実務実習の開始に向けて

　　東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

経験学習と評価について

　　東京都薬剤師会 実務実習委員会 委員長 猿橋 裕子

実務実習受入に関する注意事項　　東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

WEB システムを利用した評価について

　　薬学教育協議会 WEB システム検討委員会 委員長 木津 純子

質疑応答

閉会挨拶

　　東京都薬剤師会 常務理事 高松 登

#### (4) 薬局業務研修会の実施

今年度は、2020 年東京オリンピック・パラリンピックを控え、世界各国からの多くの訪日者による様々な感染症の発生リスクが増加することが懸念されることから、性感染症に係る内容を中心に講演を行った。

##### 【薬局業務研修会】

期　日：平成 31 年 1 月 27 日(日) 12:30~16:00

場　所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：621 名(内、会員外 12 名)

内　容：

挨拶

　　東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

性感染症の現状と課題

　　東京慈恵会医科大学葛飾医療センター 泌尿器科部長 清田 浩

薬局ヒヤリ・ハット事例の報告について

(公財)日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部

薬局安全課 大野 郁子

薬剤師に知っておいて欲しい緊急避妊の話

～あなたは薬剤師としてどう対応しますか～

(一社)日本家族計画協会 会長・理事長 北村 邦夫

(5) 地域包括ケアシステムへの参画に向けた在宅医療・介護提供体制の整備

地域包括ケアシステムの構築が急がれるなかで、地域支援事業における「在宅医療・介護連携推進事業」についての情報などを地区薬剤師会経由で会員に周知するとともに、事業実施報告も含め在宅医療・介護地区担当者会議を開催した。

平成30年度は、「都内の薬局又は薬剤師に対し、在宅医療に関する知識・技能を有する人材の確保、地域連携促進に向けた体制構築、関係者との協力関係構築、地域住民に対するかかりつけ薬剤師・薬局機能の普及啓発等を実施することにより、薬局・薬剤師の地域包括ケアシステムへの参加を促進すること」を目的とした「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」を東京都より受託した。当事業は、本会が東京都の依頼を受け昨年度まで4年にわたり実施してきた「薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」及び「薬局・薬剤師健康拠点推進事業」を発展的に統合した形が取られており、一部内容において事業の拡大や組み換えを行った。

無菌調製技能習得研修では、これまでの「薬局・薬剤師在宅療養支援促進事業」と同様に、都内薬系3大学と協力して研修を実施した。今年度は、従来からの無菌調製に関する基本的な知識・手技を行う基礎研修(2大学)に加え、今後の地域包括ケアシステムの実現に向けて、在宅における緩和ケア医療に関する基本的な知識や疼痛管理における輸液ポンプ操作等の手技を行うステップアップ研修(1大学)を実施した。

在宅医療連携研修(II-a)では、在宅医療・介護地区担当者会議で事業概要の説明を行ったあと、在宅訪問薬剤管理指導に関わる地域薬局連携のための研修会を36地区薬剤師会で実施した。地域施設実地研修(II-b)では、無菌調剤室設置施設での実地調製研修を28地区薬剤師会で実施した。地域連携構築に向け多職種間における、連携促進・啓発事業(III-b)では、住民への啓発並びに連携促進を34地区薬剤師会が地域包括支援センターと連携して実施した。委託事業の組み換えにより今年度から「地域包括ケアシステムにおける薬局・薬剤師の機能強化事業」に組み込まれた関係者連絡会(IV-a)では、2回の会議を開催し、9月には都薬の当事業への取り組み計画を、3月には年度の活動結果を、それぞれ関係者団体に報告した。訪問服薬指導等に関する状況把握(IV-b)では、18地区薬剤師会が、多職種連携連絡会を開催し、地域包括ケアシステムの早期実現に向けて地域ごとの問題、構築方法等について検討した。

地域薬局間連携研修と地域連携構築支援事業に関する開催地区及び各研修会の参加人数等は【資料3】のとおりである。

#### 【無菌調製技能習得研修会】

##### 1. 星薬科大学(ステップアップ研修)

期 日：平成30年7月29日(日) 10:00～16:30

場 所：星薬科大学

受講者：29名

(これまでに「無菌調製技能習得研修会」を受講し、修了証を有する者)

概 要：

##### <講義>

開講にあたって

東京都福祉保健局 健康安全部 薬事監視担当課長 河野 安昭

星薬科大学 学長 田中 隆治

東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

疼痛管理におけるPCAポンプの役割

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ 添石 遼平

緩和医療の基礎知識 星薬科大学 実務教育研究部門 講師 鳥越 一宏

##### <実習>

無菌調製の基本操作と持続注入ポンプの薬液調製

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ

委員 前田 桂吾

CADD Legacy PCAポンプの機能と操作方法

スミスマディカル・ジャパン株式会社 事業開発部

シニアマネージャー 鈴木 健宏

閉会式(総括・修了証の授与)

##### 2. 帝京大学における研修

期 日：講義 平成30年9月2日(日)10:00～16:25 57名受講

実習A 平成30年9月9日(日)9:30～15:10 28名参加

実習B 平成30年9月9日(日)12:45～17:15 27名参加

場 所：帝京大学 薬学部 板橋キャンパス

概 要：

##### <9月2日(日) 講義>

開講にあたって

東京都福祉保健局 健康安全部 薬事監視担当課長 河野 安昭

帝京大学 薬学部 教授 渡辺 茂和

東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

在宅医療における無菌調剤の現状

心身障害児総合医療療育センター薬剤科長

板橋区薬剤師会 理事、HIP研究会 副会長 海老原 豪

輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 営業本部 学術部 園田 景三

中心静脈栄養法(TPN)の基本

済生会横浜市東部病院 薬剤部 部長 菅野 浩

注射剤の混合調製を始めるに際して 帝京大学 薬学部 教授 渡辺 茂和

<9月9日(日) 実習>

実習講師：12名(A班5名、B班5名、統括1名、全体調整・補助1名)

薬学実習室3(調剤実習室)

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリソジの取扱い、

凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

多目的実習室(手洗い・注射実習室：クリーンベンチ使用)

混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)

総括・修了証授与

### 3. 帝京平成大学における研修

期 日：講義 平成31年3月3日(日)10:00～16:30

実習A 平成31年3月10日(日) 9:30～14:30 29名参加

実習B 平成31年3月10日(日)12:45～16:30 27名参加

場 所：帝京平成大学 中野キャンパス

概 要：

<3月3日(日) 講義>

開講にあたって 東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課長 早乙女 芳明

帝京平成大学 副学長・薬学部長 安西 健二郎

東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

在宅医療における無菌調剤の現状

心身障害児総合医療療育センター薬剤科長

板橋区薬剤師会 理事、HIP研究会 副会長 海老原 豪

輸液の基本知識

株式会社大塚製薬工場 営業本部 学術部 園田 景三

中心静脈栄養法(TPN)の基本

帝京平成大学 薬学部 講師 島崎 学

## 注射剤の混合調製を始めるに際して

帝京平成大学 薬学部 教授 清野 敏一

<3月10日(日) 実習>

実習講師：14名(A班6名、B班6名、統括2名)

### 318 調剤実習室

手洗い、手袋の脱着、アンプル、バイアル、シリンジの取扱い、  
凍結乾燥品の取扱い、薬液の採取など

### 313 無菌調剤実習室(クリーンベンチ使用)

混合調製の実践(準備、手洗い、手袋装着、混合調製、鑑査、清掃)

総括・修了証授与

## (6) 医薬品医療機器等法に対応した医薬品等の適正使用の推進 及び

供給体制整備等に関する周知徹底に資する資料提供

(8.(2) 「『薬事衛生自治指導教本』の作成と講習実施」の項を参照)

## (7) 健康サポート薬局に取り組む薬剤師への研修会A及び研修会Bの実施と

各地区での実施への支援

平成28年4月に施行された健康サポート薬局については、薬局が健康サポート薬局である旨の表示を行うにあたり、厚生労働大臣が定める基準第三号で規定される常駐する薬剤師の資質に係る「要指導医薬品及び健康食品等の安全かつ適正な使用に関する助言、健康の保持増進に関する相談並びに適切な専門職種または関係機関への紹介等に関する研修」を全て受講した後に発行される研修修了証の添付提出が必須である。日本薬剤師会と日本薬剤師研修センターが共同で、厚生労働省が指定する第三者機関(指定確認機関)である(公社)日本薬学会から健康サポート薬局に係る研修の実施機関として確認を受けたことから、当会は、日本薬剤師会との共催で技能習得型《研修会A》並びに《研修会B》の開催協力を昨年度に引き続き行い、日本薬剤師会より発出された「健康サポート薬局に係る研修」通知文であるその30～その37の内容を把握し、地区薬剤師会に伝達した。

また、当会で《研修会A》並びに《研修会B》をそれぞれ1回開催したほか、地区担当者向けに《研修会A・B》の説明会を開催し、地域単位での《研修会A》を計5回、《研修会B》を計3回、開催の共催をした。《研修会A》は合計173名、《研修会B》は合計161名に対して規定に則り受講証明書を発行した。

なお、申し込み方法は、当会ホームページを活用した受講手続きを企画し、電子メールを用いて対応することにより正当かつ的確に事務処理を行った。

**【地区薬剤師会が主催する [健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会A・B》] に関する地区担当者説明会】**

期 日：平成30年10月13日(土) 17:30～19:15

場 所：安田コミュニティプラザ

受講者：43 地区 69名

内 容：  
司会：東京都薬剤師会 理事 根本 陽充  
挨拶 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

「健康サポート薬局研修」研修会開催要領の解説

東京都薬剤師会 理事 関根 克敏

地区薬剤師会における<研修会A・B>の開催実施報告

墨田区薬剤師会 加藤 一郎

総括 東京都薬剤師会 常務理事 松本 有右

留意事項の伝達及び質疑応答 東京都薬剤師会 常務理事 一瀬 信介

東京都薬剤師会 常務理事 上野 浩男

**【健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会A》】**

期 日：平成31年3月2日(土) 16:00～20:30

場 所：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター

受講者：86名(うち会員外37名)

内 容：  
司会：東京都薬剤師会 理事 根本 陽充  
挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

健康サポート薬局の基本理念(DVD) 日本薬剤師会 会長 山本 信夫

健康サポート薬局の理念～地域包括ケアに対応した薬局・薬剤師～

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業WG 副委員長 山崎 敦代

当該地域の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状

東京都の健康課題と健康増進施策～健康サポート薬局への期待～

東京都福祉保健局 保健政策部 健康推進課

課長代理(健康づくり担当) 白庭 孝和

他職種等の取り組みについて～健康サポート薬局との連携を探る～

①地域における健康課題と健康づくり

～健康サポート薬局に期待すること～

江戸川区健康部 健康推進課長 塚田 久恵

②八王子市における多職種等の取り組みについて

～健康サポート薬局との連携～

八王子市高齢者あんしん相談センター高尾 センター長 斎藤 健一

東京都の医療・保健・健康・介護・福祉等の資源と役割の現状について

東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ

委員 篠原 昭典

演習 東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ

委員 添石 遼平

総括 東京都薬剤師会 常務理事 上野 浩男

#### 【健康サポート薬局に係る技能習得型研修《研修会B》】

期 日：平成 31 年 3 月 9 日(土) 15:45～20:45

場 所：TKP 神田ビジネスセンター

受講者：93 名(うち会員外 39 名)

内 容： 司会：東京都薬剤師会 理事 西澤 啓子

挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 一瀬 信介

薬局・薬剤師を巡る現状と健康サポート薬局

東京都薬剤師会 理事 濱野 明子

薬局利用者の状態把握と対応(演習)【腰痛】

昭和大学医学部理学講座 医科薬理学部門 教授 木内 祐二(DVD 講義)

進行：東京都薬剤師会 理事 龍岡 健一

総括 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

#### (8) 登録販売者研修会の実施

平成 24 年度より一般用医薬品の販売に従事するすべての登録販売者に対し、毎年 12 時間以上の外部研修を受講することが義務化されたことを受け、会員の薬局並びに店舗販売業に従事する登録販売者の資質向上を目的に、外部研修実施機関としてガイドラインに沿ったカリキュラムを基に、平成 30 年度登録販売者研修会を下記のとおり開催した。

本年度は全 3 回 12 時間のうち 1 回目を日本薬剤師会・日本薬剤師研修センターと共に開催した。受講者は 67 名であった。

#### 【登録販売者研修会】3 回講座

<第 1 回>

期 日：平成 30 年 10 月 14 日(日) 9:20～16:50

場 所：北里大学白金キャンパス 薬学部 1 号館

主 催：日本薬剤師会、日本薬剤師研修センター、東京都薬剤師会

受講者：67 名(会員外)

内 容 :

一般用医薬品が果たす役割と登録販売者に求められる資質  
日本薬剤師会 副会長 乾 英夫  
症状からみた医薬品の適用とその作用(感冒に用いられる漢方薬)  
東京都薬剤師会 海老原 寛人  
人体の構造と薬の特性  
北里大学薬学部 臨床薬学・教育センター  
保険薬局学 教授 吉山 友二  
一般用医薬品の適正使用と安全対策  
日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 矢田部 享介  
症状からみた医薬品の適用とその作用(感冒に用いられる一般用医薬品)  
日本薬剤師会 一般用医薬品等委員会 磯木 雄之輔  
最近の薬務行政について～医薬品販売制度について～  
厚生労働省医薬・生活衛生局総務課  
薬局・販売制度企画室主査 小澤 裕

<第2回>

期 日 : 平成 30 年 11 月 18 日(日) 12:30~16:50

場 所 : 日本教育会館 8 階 第 2 会議室

主 催 : 東京都薬剤師会

受講者 : 73 名(会員外)

内 容 :

一般用医薬品販売における英語対応について  
東京都薬剤師会 相談役 原 博  
医学博士 大石 咲子  
ヒューマンエラー分析～一般用医薬品ヒヤリ・ハット事例を含む～  
東京都薬剤師会 理事 関根 克敏  
感染症とは? 東京都薬剤師会 常務理事 小野 稔

<第3回>

期 日 : 平成 30 年 12 月 9 日(日) 12:30~16:50

場 所 : 日本教育会館 7 階 707 会議室

受講者 : 73 名(会員外)

主 催 : 東京都薬剤師会

内 容 :

漢方の胃腸薬  
アルゴリズム(腹痛)

東京都薬剤師会 理事 西澤 啓子  
東京都薬剤師会 理事 龍岡 健一  
東京都薬剤師会 理事 根本 陽充

#### (9) 後発医薬品の使用促進と後発医薬品データベースの充実

日本薬剤師会を経由して、平成30年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査(平成30年度調査)「後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査」の協力案内を地区に通知し、協力依頼を求めた。

後発医薬品の安定供給については、平成25年に苦情を受け付ける仕組みが厚生労働省医政局経済課に設けられており、会員から寄せられた苦情などをその都度情報提供を継続している。平成30年度は41件の情報提供を行い増加傾向にある。

「指定医療機関医療担当規定」の一部改正、「生活保護法による医療扶助運営要領について」の一部改正、並びに医療支援給付運営要領の改正が行われ、平成30年10月より、生活保護受給者並びに中国残留邦人等に対して、原則として後発医薬品を調剤することとなった。当会では、東京都と協議を行い、例外的に先発医薬品を調剤した場合には、調剤報酬明細書の摘要欄を活用して福祉事務所と情報共有を行うこととし、地区に通知し周知した。

後発医薬品比較サイトの登録医薬品データの更新及び「薬価基準新規収載品」の追加登録を行い、最新情報の提供に努めた。また、第10回目となる地域医薬品使用実態調査から得られた個々の後発医薬品の調剤回数を本サイトデータに反映した。

#### (10) 高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修の実施

平成18年度より高度管理医療機器等営業所管理者等に年に一度継続研修が義務付けられている。平成30年度も実施機関の認可を得ている日本薬剤師会と共に継続研修会を開催し、受講者に修了証を発行した。

##### 【高度管理医療機器等営業所管理者等継続研修会】

期 日：平成30年8月26日(日) 10:30～12:30

場 所：東京国際フォーラム ホールA

受講者：1,877名(うち会員外168名)

内 容：

医薬品医療機器等法その他薬事に関する法令

東京都北区保健所 生活衛生課 医薬衛生 主任 小坂 昌弘  
医療機器の情報提供・医療機器の不具合報告及び回収報告・  
医療機器の品質管理

日本医療機器協会 理事

株式会社プラトンジャパン 専務取締役 廣瀬 英一

修了者数：1,877名

東京都 1,542名、埼玉県 119名、神奈川県 115名、千葉県 90名、  
茨城県 5名、栃木県 1名、群馬県 1名、山梨県 1名、山形県 1名、  
香川県 1名、山口県 1名

#### (1 1) 地域医薬品使用実態調査の実施

東京都内において処方箋により交付されている医薬品の使用実態、すなわち交付された医療用医薬品の医薬品名、調剤回数、調剤数量及び備蓄薬局数並びにその医薬品がどのような特別な作業を伴う調剤(例えば、自家製剤、計量混合及び一包化など)あるいはどのような薬学的管理(薬剤服用歴管理指導、かかりつけ薬剤師指導、各種情報提供、在宅患者訪問薬剤管理指導など)を伴って患者に交付されたかなど、地域における医薬品の使用実態と調剤実態を明らかにすることを目的として第10回目を実施した。

さらに、国が進める後発医薬品の使用実態を明らかにし、過去のデータと比較することで後発医薬品使用の進捗状況を把握するとともに、都民への後発医薬品に関する正しい知識の普及と安定供給のための基礎資料を得ることを目的とした。

電子媒体で調剤報酬を請求する薬局を対象とし、地区薬剤師会が区市ごとに保険薬局数の1/5に相当する任意に選定した薬局、都内全体では1,200薬局を調査対象とした。

調査対象月及び対象者は、平成30年10月調剤分の被用者保険、国民健康保険及び後期高齢者医療保険の加入者とし、調査対象薬局の電子レセプトデータから“患者”及び“調剤した薬局”並びに“処方箋発行医療機関”にかかる一切の個人情報を電磁的に削除した医薬品等に関するデータのみを抽出し、解析用データとした。

(7. (4) 「後発医薬品の備蓄に関する情報提供」の項を参照)

#### (1 2) 計量器管理と東京都計量検定所の巡回検査の周知

新規に開局した薬局が検査を受けられるよう東京都計量検定所に新規会員の勤務先として登録のあった薬局に関する情報提供を行った。

#### (1 3) 医薬品流通のための連絡協議会の開催

平成30年7月4日に「災害」をテーマに、東京都地域防災計画に記載された調達手順の検証を含む「災害時の医薬品供給体制の現状と課題について」、また医薬品医療機器等法の改正規則等への対応状況を含む「偽造医薬品流通防止の対応」について、

東京都医薬品卸業協会及び当会の担当役員で協議を行った。

### 2-3 医薬分業対策

#### (1) 医薬分業地区指導者会議の開催

平成30年度は、地域包括ケアシステムの実現に向け、病院薬剤師と薬局薬剤師との連携が今後より重要となることから、「薬薬連携」をテーマに地区薬剤師会から地区指導者の派遣に加え、初の試みとして東京都病院薬剤師にも参加を募り、下記の日程にてワークショップ形式で開催した。また、会議終了後に出席者による情報交換会を行った。

##### 【医薬分業対策地区指導者会議】

期 日：平成31年2月17日(日) 9:00～18:00

場 所：帝京平成大学 中野キャンパス 4階 436教室他

出席者：地区薬剤師会参加者45名、東京都病院薬剤師会参加者19名、

役員7名、薬局業務委員会委員14名

内 容：

挨拶 東京都薬剤師会 副会長 藤田 義人

趣旨説明 東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員長 篠原 昭典

基調講演

「東京都薬剤師会 薬薬連携委員会が行っている保険薬局薬剤師と  
病院薬剤師の連携の取り組みと今後の課題」

青梅市立総合病院 薬剤部長 松本 雄介

作業説明：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 副委員長 山田 充訓

<スモールグループディスカッション>

テーマ「薬局薬剤師と病院薬剤師の連携について相互の考え方」

作業説明：東京都薬剤師会 薬局業務委員会 委員 宮原 富士子

<スモールグループディスカッション>

テーマ「薬局薬剤師と病院薬剤師の連携すべき情報、共有すべき情報」

#### (2) 広域医療機関等、処方箋応需に係る諸問題への対応

平成30年度は、延べ17広域医療機関から報告のあった採用医薬品情報(変更を含む)について管理センター等に情報提供を行い、応需体制確立の側面支援を行った。

#### (3) 医薬分業について関係諸団体との協力

日本薬剤師会の関東・東京ブロック会議開催要領に基づき、年1回1都7県持ち

回り開催分として、平成 31 年 2 月 3 日に本会が主催し、東京ブロックより役員 11 名が出席した。議題は下記のとおり。

- (1) 薬剤師行動規範について
- (2) 薬剤師を巡る最近の課題について
- (3) 医薬品販売制度実態把握調査結果
- (4) かかりつけ薬剤師・薬局について
- (5) 医療に係る ICT の動向
- (6) その他

## 2-4 地域医療対策

### (1) 東京都の保健医療計画等各種計画への積極的な対応

各協議会等に委員として参画し意見するとともに、薬局・薬剤師の役割が計画に反映されるよう働きかけた。

### (2) 東京都保健医療計画に対応する二次医療圏連絡協議会への参加と協力

地域保健医療協議会に委員が参加し、地域医療の課題への対応を協議するとともに、チーム医療の中で、薬局・薬剤師が役割を果たせるよう連携体制の構築に努めた。

### (3) 切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進

入退院時における継続した薬物療法の実践や今後の地域包括ケアシステムの実現に向けて、病院薬剤師と薬局薬剤師の連携は不可欠であることから、これまでに、内服抗がん剤に焦点をあて、入院から退院後の治療に必要な情報の共有を目的とした「内服抗がん剤に関するシンポジウム」及び病院薬剤師及び薬局薬剤師がすぐにでも実践できるよう、地域で実施されている薬・薬連携の取り組みを紹介した「薬・薬連携シンポジウム」を開催した。

今年度は、地域において病院薬剤師と薬局薬剤師がより一層密な連携体制を構築できるように、研修会のテーマを今後の地域包括ケアにも不可欠な「緩和ケア」とし、講義並びに医療圏単位を考慮したスマートグループディスカッション形式の研修会「平成 30 年度 薬・薬連携推進研修会」を開催した。また、病院薬剤師と薬局薬剤師が臨床推論の思考プロセスを共に学び薬薬連携を強化することを目的として、東京都病院薬剤師会 臨床推論推進特別委員会にて企画された研修会「臨床推論推進特別委員会公開講座～薬・薬連携シンポジウム～」を共催し、薬・薬連携委員会から講師等を選出した。

## 【平成 30 年度 薬・薬連携推進研修会】

期 日：平成 31 年 2 月 23 日（土） 16:30～20:00

場 所：三井記念病院 外来棟 7 階会議室

受講者：43 名（薬局薬剤師 29 名（会員 22 名、会員外 7 名）、病院薬剤師 14 名）

内 容：テーマ「地域で支える緩和ケア～薬局・病院連携の推進～」

開会あいさつ

東京都薬剤師会 副会長 明石 貴雄

<基調講演> 「地域で支える緩和ケア」

永寿総合病院 がん診療支援・緩和ケアセンター長

緩和ケア病棟長 廣橋 猛

<スモールグループディスカッション>

テーマ「地域で支える緩和ケア～薬局・病院連携の推進～」

タスクフォース：①東京都病院薬剤師会

緩和医療領域薬剤師養成小委員会 委員

②東京都薬剤師会 薬・薬連携委員会 委員

「緩和ケア概論」

熱海 幸恵(①)

「全人的苦痛と包括的アセスメント」

宮里 明芽(①)

「がん疼痛の評価と治療」

藤掛 沙織(①)

閉会あいさつ

東京都病院薬剤師会 副会長 篠原 高雄

## 【臨床推論推進特別委員会公開講座～薬・薬連携シンポジウム～】

期 日：平成 31 年 3 月 3 日（日） 9:30～13:30

場 所：東京医科大学病院 新教育研究棟 3 階 AB 教室

受講者：43 名（薬局薬剤師 20 名、病院薬剤師 23 名）

内 容：テーマ「病院薬剤師と保険薬局薬剤師が臨床推論の

思考プロセスを共有し、薬・薬連携の強化につなげよう」

開会の辞

東京都病院薬剤師会 副会長 篠原 高雄

<講演 1> 「今、どうして臨床推論が必要なのか？」

総合診療医・感染症医／感染症コンサルタント

北海道科学大学客員教授 岸田 直樹

<ケースカンファレンス>

スエヤス調剤薬局 文京店 島田 淳史

東京医科大学病院 薬剤部 東 加奈子

<講演 2> 「現病歴を詳細に聴く！OPQRST を使ってみよう！」

河北総合病院 薬剤部 小暮 宗介

<講演3>「気持ちを伝える！ワンセンテンスサマリーを使ってみよう」

東京西徳洲会病院 薬剤部 岩井 大  
閉会の辞 東京都薬剤師会 常務理事 高松 登

## 2-5 医療安全対策

### (1) 医薬品医療機器等法等改正に伴う体制の整備

薬局における医薬品の業務に係る医療の安全を確保するための基本理念及び安全確保に関する具体的方策等の周知徹底を図るために、薬学講習会において「医療安全管理講座・保険薬局における医療安全について」の講習を行った。

### (2) 薬局版ヒヤリ・ハット事例収集分析事業への協力及び

#### 薬局登録促進等調剤事故防止対策の徹底

平成30年度調剤報酬改定により新設された「地域支援体制加算」の施設基準では、実績要件に、疑義照会により処方変更がなされた結果、患者の健康被害や医師の意図した薬効が得られないことを防止するに至った事例を提供した実績を、薬局機能情報提供制度において「プレアボイド事例の把握・収集に関する取組」として「有」とすることが求められている。よって、日本医療機能評価機構が運営するヒヤリ・ハット事例報告登録薬局に登録し、事例を報告する参加薬局は急激に増加した。2018年12月末日現在の都内参加薬局数は、3,694件である(2018年12月末日現在1,064件)。

薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業第18・19・20回報告書及び2017年度年報を地区薬剤師会へ周知した。直近の第20回報告(報告期間2018年7月～12月)において、事業参加登録は33,000余薬局、調剤に関して18,000余事例、疑義照会に関して41,000余事例、他計60,000弱の事例が報告されている。

ほかに、医療事故収集等事業の「医療安全情報」No.137～No.148と報告書第53・54・55回の薬剤関連部分についても周知を図った。

### (3) 調剤過誤発生後の的確な対応と弁護士紹介

平成27年に医療事故調査制度が施行され、東京都に設立された医療事故調査等支援団体連絡協議会が公表した提言を回覧した。

調剤過誤でトラブルとなり相談のあった件について顧問弁護士への相談の橋渡しを行った。

### (4) 東京都健康安全研究センターへの協力

平成 30 年度中に薬局・薬剤師に対する苦情は 7 件受付けている。苦情の内容として、薬剤師(薬局の事務員を含む)の接遇に関するもの 5 件、調剤された薬剤の不足に関するもの 2 件、処方箋の紛失・再発行に関するもの 1 件、添加剤の副作用に関するもの 1 件が寄せられた(重複あり)。

#### (5) 使用済み注射針回収事業の継続と今後のあり方の検討

使用済み注射針回収事業は東京都全域の地区薬剤師会で実施継続されている。事業開始以来 17 余年が経過し、患者や地域住民、地域行政にも事業の意義が広く浸透している。

平成 30 年度は、回収専用容器を 16 万個作成し、地区薬剤師会あるいは地区薬剤師会の事業を支援する行政に対して 1 個あたり 100 円にて有償頒布を行うとともに、医薬品空容器を使用済み注射針回収容器として再利用するための専用シール、容器封緘シールを作成・配布した。また、新規参加薬局 137 件に対しても事業参加支援を行った。また、都内全域で 15 万 7 千本強(昨年度より 4.7%増加)の容器が回収されたとの報告を地区薬剤師会より受けた。

#### (6) 薬剤イベントモニタリング(DEM)事業への協力

平成 29 年度より従来の方法(患者への聞き取り調査)が変更され、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に対応した調査が実施されている。

事業内容は平成 29 年度同様、新薬として薬価収載されて 1 年が経過し、長期投薬が可能となって広く使用されるようになった医薬品を対象としているが、今年度は、これまで発見されなかった新たな事象を投与初期に発見するため、初回投与開始から約 3 カ月(13 週間)以内の期間に焦点を絞って調査が実施された。

地区薬剤師会を通じて、DEM 事業周知のための薬局用説明書等を会員薬局に配布し、データ収集への協力を呼びかけた。

##### <研究課題名>

医薬品の使用に伴う有害事象の検討：平成 28 年 11 月薬価収載 11 品目に関する Drug Event Monitoring(DEM)における報告イベントの解析

##### <本研究の目的>

調査対象医薬品を使用した方に発生したイベントの内容を調査するとともに、発生割合が医薬品使用開始からの期間によって異なるかなどについても調査を行う。この事業により報告されたイベントを解析し公表することにより、医薬品の適正使用に資する安全性に関する情報を提供することができる。

##### <調査対象医薬品>

ウプトラビ錠、カーバグル分散錠、ビラノア錠、ブリリンクタ錠、デザレックス錠、

リアルダ錠、リフキシマ錠、ジャクスタピッドカプセル、ゼンタコートカプセル、エレルサ錠、グラジナ錠(11品目)

<対象者>

平成29年11月1日～平成30年4月30日の間に調査対象医薬品が新規に処方された方に対して薬局で調剤を行い、最初に投薬してから91日間(13週間)以内に再来、あるいは電話等で薬剤師が対応し、対象医薬品の服用状況が薬歴から確認できた方。

<利用する情報>

使用した調査対象医薬品名、使用開始時の一日量、使用開始日、訴えのあった症状の有無(症状があった場合はその内容、症状発生日、その後の処方状況、調査対象医薬品使用との因果関係、医療機関への報告の有無)、年齢、性別、喫煙・飲酒の有無

(7) 学術倫理特別委員会の実施・運用

学術倫理特別委員会は、会員が勤務する薬局、地区・職域薬剤師会、本会の委員会等が実施する医学薬学領域における調査・研究の倫理的妥当性を審査することを目的として、平成26年11月に設置された。

演題登録時に倫理への配慮に関して確認が求められる平成31年度 第52回日本薬剤師会学術大会(山口)に向けて、審査に関して委員会に問合せ、審査申請が増加した。平成30年度は審査申請が6件あり、4件を承認した。

### 3 医療保険対策

#### 3-1 医療保険対策

(1) 医療保険等関連情報の収集と伝達

調剤報酬の算定の可否等に関する質問については随時回答し、適正な調剤報酬の確保に務めた。なお、下記の質問受付回数は計1,900件を上回った。また、各種の医療保険関連通知、制度改正などはその都度地区薬剤師会に伝達した。

[月別問い合わせ件数]

月	質問件数	月	質問件数	月	質問件数
4月	277	8月	140	12月	145
5月	140	9月	162	1月	92
6月	162	10月	120	2月	141
7月	188	11月	196	3月	153

関東信越厚生局管内10県薬剤師会社会保険担当者協議会は、年1回1都9県持ち

回り開催しており、平成 30 年度は茨城県薬剤師会が主催し、32 名が出席した。平成 31 年 2 月 7 日開催の会議に、医療保険担当役員 1 名、医療保険委員 1 名並びに事務局 1 名を派遣した。協議議題は下記のとおり。

- 1 保険審査に伴う薬歴提出について
- 2 処方箋による固形ブドウ糖の調剤について
- 3 リタリン、コンサータの流通について
- 4 薬剤服用歴管理指導料について
- 5 投与期間上限を超過する投与を記す処方箋の取扱いについて
- 6 医療機関と地域薬剤師会等との「疑義照会簡素化のためのプロトコル」について
- 7 調剤料の各加算について
- 8 服薬情報等提供料 2 について
- 9 向精神薬の多重投与について
- 10 個別指導における薬局の質の向上について
- 11 調剤レセプトへ保険薬剤師氏名の記載について
- 12 特定薬剤管理指導加算について
- 13 個別指導におけるレセプト審査の情報共有について
- 14 重複投薬・相互作用等防止加算の取扱いについて
- 15 調剤料の解釈について
- 16 その他

### (2) 適正な保険請求業務の指導

#### 【レセプトオンライン代行請求支援】

平成 21 年 5 月請求時からオンライン請求の義務化が実施されたが、オンライン回線敷設が困難な会員薬局を支援するため代行請求業務を開始した。平成 30 年度は 2 保険薬局に対し当該代行請求サービスを継続した。

### (3) 「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成

平成 30 年 4 月から実施された調剤報酬改定に係る算定要件の内容等を解説した「国民健康保険調剤必携」を発行した。特掲診療料の施設基準の届出に関する事項や平成 30 年度保険薬局の指導における主な指摘事項、平成 30 年 4 月に改正された東京都大気汚染医療費助成制度“公費請求の手引”、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業“第 20 回報告書”について掲載し、地区薬剤師会を通じて全会員保険薬局に配布し適正な請求の確保を図った。

また、調剤報酬点数表一覧を作成し、患者が閲覧できる「薬局内の掲示物」として、地区薬剤師会を通じて保険薬局に配布を行った。

#### (4)「2018年改訂版保険調剤のてびき」の作成

平成30年4月に実施された調剤報酬改定の内容及び保険調剤に関する関係法令を解説した「2018年改訂版保険調剤のてびき」を発行（有償頒布）した。また、本書籍発行にあたり“2018年改訂版保険調剤のてびき編集ワーキンググループ”を組織し、記述内容を検討のうえ作成した。

#### (5)新規個別指導薬剤師の養成

##### 【第1回 新規個別指導薬剤師養成講座】

期日：平成31年1月14日(月・祝) 11:00～16:00

場所：東京都薬剤師会館 3階及び4階

受講者：12名

次第：

開会挨拶・基調講演 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

グループワークにて3課題を協議・発表・全体討議

進行：東京都薬剤師会 医療保険委員会 委員長 伊澤 慶彦

同 副委員長 富岡 正博

総括・閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

##### 【第2回 新規個別指導薬剤師養成講座】

期日：平成31年2月24日(日) 12:00～17:00

場所：東京都薬剤師会館 3階及び4階

受講者：12名

次第：

開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

基調講演 東京都薬剤師会 医療保険委員会 副委員長 富岡 正博

グループワークにて3課題を協議・発表・全体討議

進行：東京都薬剤師会 医療保険委員会

委員長 伊澤 慶彦

副委員長 富岡 正博

関東信越厚生局管内10都県薬剤師会として

東京都薬剤師会 医療保険委員会 委員長 伊澤 慶彦

総括・閉会挨拶 東京都薬剤師会 常務理事 山田 純一

#### (6)保険薬局の経営等に関する各種調査

平成 30 年度は、以下の各種調査に対応し、無作為抽出等で対象とされた薬局等に對し、地区薬剤師会を通じ回答の協力を依頼を行った。

- ・平成 30 年度調剤報酬改定に伴う影響調査（平成 30 年度調査）
- ・平成 30 年度医薬品価格調査及び特定保険医療材料価格調査
- ・平成 30 年度診療報酬改定の結果検証に係る特別調査（平成 30 年度調査）

#### 後発医薬品の使用促進策の影響及び実施状況調査

- ・平成 30 年度厚生労働省保険局医療課による委託事業「薬局の機能に係る実態調査」
- ・保険薬局薬剤師の疑義照会及び情報提供に関する調査
- ・平成 30 年度厚生労働省保険局医療課による委託事業「薬局の機能に係る実態調査」
- ・薬局の情報共有に関する調査「かかりつけ薬剤師・薬局の多機関・

#### 多職種との連携に関する調査研究」

各種調査の対象として無作為抽出された薬局等に日本薬剤師会より依頼があり、地区薬剤師会に周知依頼を行った。

### 3－2 介護保険制度の適正な運用の指導と高齢者対策

#### (1) 在宅薬剤管理業務の拡充のための調査・研修会の実施

急速に進む少子高齢社会に対応すべく構築が進められている地域包括ケアシステムについて、在宅療養への薬局・薬剤師の参画を推進することを目的に「在宅療養支援促進事業」を実施している。平成 30 年度はその一環として ACP (Advance care planning) をメインテーマに据え「患者の意思が尊重された医療及びケアを提供するための多職種連携に関する講演」を主題とした「在宅療養多職種連携研修会」を開催した。本研修会は薬局薬剤師、病院薬剤師と医療機関と行政における薬物療法の連携構築に向けて、多職種との意見交換の時間も設けた。

#### 【在宅療養多職種連携研修会】

期 日：平成 30 年 2 月 2 日(日) 17:00～19:30

場 所：日本教育会館 一ツ橋ホール

受講者：404 名

内 容：

司会：東京都薬剤師会 理事 根本 陽充

挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

基調講演「地域包括ケアシステム社会において期待される薬剤師の役割」

東京都医師会 理事 渡辺 象

基調講演

「どう生きたいかについて意思表明を支える ACP (Advance Care Planning)

～よりよいエンドオブライフケアのために～」  
 東京女子医科大学看護学部看護学研究科  
 老年看護学エンドオブライフケア学 教授 長江 弘子  
 「地域包括ケアシステムの構築に向けた都薬総務の取組」  
 東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課 事業連携担当 阿部 朋弘  
 「かかりつけ薬剤師とACP」  
 東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ  
 委員 會田 一恵  
 シンポジウム(発表者と共に会場参加者との意見交換)  
 座長：東京都薬剤師会 理事 阿部 宏子  
 東京都薬剤師会 在宅医療支援事業ワーキンググループ  
 委員 伊藤 威

#### 4. 医薬品等薬事情報対策

##### (1) 安全・適正な医薬品使用の啓発のための情報収集・提供

###### ①薬事情報課(医薬品情報室)利用状況

薬事情報課は医薬品情報室として設置されて以来 43 年目を迎えた。医薬品情報のみならず医療情報、健康食品情報、アンチ・ドーピング、薬事関連法規等の各種の薬事情報の収集・提供に努めている。また、インターネット等を利用して会員に対する情報提供を充実させ、利用者へのサービス向上に取り組んでいる。

###### 【問い合わせ件数集計(平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月)】

(問合せ件数)

平成 30 年 4 月	82 件	10 月	69 件
5 月	129 件	11 月	71 件
6 月	119 件	12 月	56 件
7 月	104 件	平成 31 年 1 月	68 件
8 月	91 件	2 月	73 件
9 月	68 件	3 月	93 件
		合 計	1,023 件

(問合せ者別集計)

①薬局	109 人	(11.1%)
②病院・診療所	14 人	(1.4%)

③卸	0人	(0.0%)
④管理センター	3人	(0.3%)
⑤製薬会社	18人	(1.8%)
⑥医療関係者	37人	(3.8%)
⑦その他	802人	(81.6%)
合 計	983人	

(問合せ事項別集計)

	全体		医療従事者 ・関係者		一般	
①保険・法規関係	45件	(4.5%)	37件	(20.2%)	9件	(1.1%)
②医薬品一般	113件	(11.0%)	8件	(4.4%)	105件	(12.5%)
③副作用・中毒	34件	(3.3%)	0件	(0.0%)	34件	(4.1%)
④薬理・疾病	20件	(2.0%)	1件	(0.5%)	19件	(2.3%)
⑤薬剤学的事項	3件	(0.3%)	1件	(0.5%)	2件	(0.2%)
⑥製剤識別	0件	(0.0%)	0件	(0.0%)	0件	(0.0%)
⑦ドーピング	624件	(61.0%)	128件	(69.9%)	496件	(59.0%)
⑧その他	183件	(17.9%)	8件	(4.4%)	175件	(20.8%)
合 計	1,023件		183件		840件	

問合せ者数、問合せ件数ともに前年度とほぼ同数となった。

問合せ者別にみると、一般都民からの問合せがもっとも多く、次いで薬局薬剤師、医療関係者、製薬会社、病院・診療所薬剤師と続く傾向は変わらない。

問合せ事項の内訳としては、一般の方からのドーピングに関する問合せが圧倒的に多い傾向が続いている。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を控えており、ドーピングに関する問題がニュース等で大きく取り上げられるなど、ドーピングに対する意識の向上から、今後もこの傾向が続くと思われる。

なお、他の事項中、健康食品に関する問合せは9件、妊婦・授乳婦に関する問合せは1件であった。

## ②医薬品情報提供事業

### 【D I 速報(FAX等)の発行】

厚生労働省医薬品・医療機器等安全性情報の概要 No. 352～361	10回
新薬情報 No. 123～127	5回

## (2)インターネットを利用した各種薬事情報提供の推進

東京都薬剤師会ホームページ「医薬品等情報ページ」では、独自に作成した「新薬情報」、「添付文書改訂のお知らせ」を随時掲載するとともに、「医薬品・医療機器等安全性情報」の最新号にリンクを貼り、会員への周知に努めた。また、冊子「DIレター」「医薬品情報」については、発行後、PDF形式にて掲載している。

## (3)都民のための「おくすり相談窓口」業務の充実

道府県薬剤師会が作成したQ&A集等参考書籍、データを収集した。

## (4)都民のための「健康食品に関する安全性情報」提供のための情報収集

東京都及び東京都医師会と協力し、健康食品によると疑われる健康被害情報の収集に努め、東京都へ5件の被害情報を報告した。

会員から広く被害事例収集するため、「健康食品情報共有シート」を定期的(3回／年)に都薬雑誌に同封した。

また、東京都より発出された健康食品との関連が疑われる健康被害事例の収集への協力依頼文書(前期分)を薬学講習会で受講者に配布したほか、後期分の協力依頼文書、健康食品との関連が疑われる健康被害事例(平成18年7月～平成30年11月)をまとめた冊子「健康食品に関する安全性情報共有事業」、チラシ「健康被害情報をおらせください！」を地区薬剤師会経由で会員薬局に配布し、事例の収集を呼び掛けた。

健康食品データベースにおいては、企業からの新規登録及び修正依頼に対して、より円滑に対応できる機能を構築した。また、企業からの要望により、9製品のデータを削除した。

## (5)関係諸団体との連携、情報収集

厚生労働省、日本薬剤師会と連携し、医薬品やその副作用等に関する情報の収集に努めた。また、東京医薬品工業協会主催の研修会等へ参加し、医薬品情報収集への協力を求めた。

# 5. 衛生試験所で行う試験検査対策

## (1)随意試験：会員薬局の業務向上に資する医薬品試験及び情報提供

分包された調剤済み医薬品に対する患者クレーム対応の試験検査を行った。その内訳は、印字ミス(2件)、分包機の不具合による内容物流出(2件)、処方量の疑義(1件)、内容物の確認(1件)であった。

印字ミスは、調剤した薬剤と印字される薬剤を薄層クロマトグラフィーを用い短時間で試験し、印字ミスを明らかにした。分包機の不具合による内容物流出検体は、分包紙の接着面に不備があり内容物がこぼれたことに起因するが、1包中の成分含量を高速液体クロマトグラフィーでそれぞれ定量した。処方量の疑義においては、高速液体クロマトグラフィーにより、1包中の量は処方箋量の1/2であることを明らかにした。内容物の確認は、PDA 検出器付きの高速液体クロマトグラフィーにより、調剤した薬剤と処方箋に記載する薬剤を比較し、処方どおりであったことを確認した。これら全ての検体は、小児用散剤であった。

## (2) 計画的試験：試験所契約の薬局が製造する薬局製剤の承認規格試験

平成30年度の計画的試験として試験所契約の薬局が製造する薬局製剤の承認規格試験を行った。36種類71検体が搬入され、試験を行ったところ、2検体が含量基準に外れる可能性が高いということで不適切品と判定した。承認規格に適合するか否かを判定するには、製剤均一性試験の結果も必要であるが、検体搬入量が十分でないことから、不適切品という評価区分を仮に設け判断した。

基準に外れる可能性の高い薬局製剤を製造した薬局には時をおかずしてその結果を報告するとともに、薬局製剤業務指針の処方・規格の確認及び製造記録の再確認を薬局にお願いした。

【平成30年度計画的試験実施件数】

	処方数	検体数	不適数	不適切数 <sup>※1)</sup>
I . 薬局製剤の承認適否試験	36種	71検体	0検体	2検体
1)漢方薬(切断生薬)	20種	27検体	0検体	0検体
2)生薬製剤(生薬末)	1種	5検体	0検体	0検体
3)化学薬品を主とする内服薬	8種	28検体	0検体	2検体
4)外用薬	7種	11検体	0検体	0検体

<sup>※1)</sup>適否判定を行うには、一般的には定量試験の結果と製剤均一性試験の結果から総合的に判断しなければならない。今回、定量規格には外れるが、検体数量が少なくて製剤均一性試験が実施できなかったことから、独自に不適切という評価区分を設けた。

## (3) 一包化調剤に伴う医薬品の品質調査

一包化調剤を行うと品質の劣化が疑われる薬剤があり、これらの品質試験を行った。総計は58種類の薬剤の組み合わせからなる18処方であり、これらは会員の所属する薬局から試験依頼のあった薬剤である。

一包化調剤を施し保管した場合、その品質保証が得られる基準、規格および試験方法は今まで確立されたものもなく、公定法もない。医薬品製造販売においては、

製造された医薬品等の保管および流通期間での品質の安定性を明らかにする試験として安定性試験があり、また品質劣化を調べる試験には過酷試験がある。そこで家庭での調剤済医薬品保管期間の実情を考慮し、安定性試験の1つである加速試験の保管条件、「暗所、40°C±2°C／75%RH±5%RH」を準用するものの、保管期間は6カ月間から1カ月間に短縮し、経時的な品質変化を調べた(条件(1))。

また、同時に安定性試験の1つである長期保存試験の保管条件、「暗所、25°C±2°C／60%RH±5%RH」を準用するものの、保管期間は12カ月から3カ月間に短縮し、経時的な品質変化を調べた(条件(2))。

その判定は、それぞれの医薬品のインタビューフォームに記載する剤形、製剤の各種条件下における安定性試験の結果を参考し、検体收受日を0日とし、1カ月後および3カ月後に変化を認めたものを不適、変化を認めないものを適と評価した。

本条件で不適となった一包化剤は18処方中条件(1)では13処方が不適であり、条件(2)での不適処方8例はすべて条件(1)でも不適であった。

また、一包化されたランソプラゾール口腔内崩壊錠は吸湿を受け易く、高湿度の保管で顕著に球形顆粒の表面色素が変色し、甘味料であるアスパルテームも減少し変味を呈した。この結果については『一包化調剤に伴うランソプラゾール口腔内崩壊錠の品質劣化とその防止策』と題し、第51回日本薬剤師会学術大会(石川開催)で発表した。

#### 【平成30年度一包化試験実施件数】

	処方数	検体数	不適数
II. 一包化調剤の品質試験 条件(1)	18種	65薬剤	13処方
一包化調剤の品質試験 条件(2)	18種	65薬剤	8処方

#### (5) 日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)

への協力・参画

日本薬剤師会が実施する全国統一試験(医薬品試験に係る精度管理試験)を内部精度管理試験として受託し、ベタメタゾンの定量試験を実施した。結果は日本薬剤師会に報告し、各県薬から回答された全国統一試験としてまとめられた。

#### (6) その他

外部精度管理試験として、今年度は厚生労働省で実施する「登録試験検査機関間比較による技能試験」に参加し、ファモチジンの定量試験を行った。結果は厚生労働省に報告し、正常に試験運営されていることが保証された。

### 6. 「図書企画・編纂・出版」事業

## (1) 「都薬雑誌」の編集・発行

薬剤師にとって身近であり、すぐに活用できる情報誌となることに留意しながら企画・編集を行い、月刊誌「都薬雑誌」を12回発行した。

前年度に引き続き、本会の各委員会委員長に「巻頭言」を執筆いただき、委員会活動を紹介することによって本会の活動内容の周知に努める一方、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックの開催を見据えた企画「アスリートの本音～オリンピックを目指した日々～」を開始するなど、会員にとってより身近な情報誌となることを目指して企画立案を行った。

「都薬雑誌第40巻」の特徴ある企画には、以下のような企画が挙げられる。

在宅で活躍する薬剤師の参考に供するためのシリーズ「褥瘡のタイプと治療」や「保険薬局の薬剤師でも知っておきたい輸液管理の基本」「外来リハビリシリーズ」の掲載、また在宅で患者が安全にがん薬物療法を受けられるよう、医療機関と保険薬局間で共通に認識しておきたい知識を紹介するシリーズ「がん薬物療法の患者安全管理に向けた 知っておきたい共通認識」を開始した。

また、ペットブームに沸く現代において、薬剤師が身近な街の相談者となるための知識として、「獣医師が処方している薬について」やシリーズ「医薬品に関する獣医療関連法規」を掲載した。

「東日本大震災被災地は日本の将来の縮図」では、多職種で地域を守る活動とその取り組みを紹介した。

先進国の中で若者の自殺者が最も多い我が国において、自殺防止への取り組みを紹介するシリーズ「ストップ自殺 生きづらさを抱えた現代社会を生きる人々 地域で考える自殺防止への取り組み」を開始した。

その他、新シリーズとして「薬事承認された再生医療製品」「登録販売者試験ちょっと覗いてみませんか?」「改めて確認しよう!糖尿病とインスリン注射に関する服薬指導」「機能性胃腸症の薬」「高齢者の骨折」「骨髄の世界」「関節リウマチの診断と治療」「風邪と呼吸器感染症」「眼の世界」など、多岐にわたる話題を取り上げ、提供した。

また、「都薬雑誌バックナンバー」第39巻(2017年発行)を本会ホームページに掲載したことにより、39年間分のバックナンバーを閲覧し活用することを可能とした。

## (2) 『医薬品情報』・『D I レター』の発行

東京都からの委託を受け、平成30年7月～平成31年3月まで医薬品情報No.1～5、DIレターNo.1～4を各々隔月に発行した。医薬品情報では主に医薬品の使用上の注意改訂、副作用について解説したほか、昨年度に引き続き、今年度も地域包括並び

に在宅における必要な知識「地域包括ケアに関連して」として第6～8回及び第10回 近藤幸男 学術委員会副委員長、第9回 柳順子 社会福祉法人寿楽園 主任介護支援専門員に執筆いただき掲載した。また、DIレターには医薬品適正使用情報等を掲載した。

### (3) 調剤報酬関連の冊子の企画、編纂

(3-1)(3)「国民健康保険調剤必携」等保険調剤関連資料の作成の項参照)

## 7. 医薬品・情報管理センター事業への対策

### (1) 医薬品・情報管理センターを拠点とする薬事情報提供活動の推進

薬と健康の週間用資料、DIレター、薬事関係資料、偽造処方箋情報及び医療保険情報などを提供し、管理センターの情報中継機能を支援した。

また、管理センターの役割として、大規模災害で東京が被災した際の薬剤師班活動を支える業務の対応、他道府県からの災害支援応募薬剤師の資格確認や活動場所の指示、活動方法の伝達等、その他災害時の情報拠点となるよう態勢整備を計画した。

### (2) 医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理

平成27年7月から医療用医薬品にJANコードが記載されなくなったことから、同年にシステムの改修を実施し、新たに添付文書情報の表示機能や後発医薬品比較サイトとの連携等の機能を追加し、利用者の利便性の向上を図った。また、医薬品マスター等の更新を適宜行い、システムの安定運用に向けた対応を継続的に実施した。

### (3) 薬局間の備蓄医薬品検索システムの維持・管理

(7.(2)「医薬品・情報管理センター備蓄医薬品検索システムの維持・管理」を参照)

### (4) 後発医薬品の備蓄に関する情報提供

平成30年10月調剤分を対象にした第10回地域医薬品使用実態調査で得られた調査結果の一覧表を掲載するとともに、全医薬品の調剤回数を後発医薬品比較サイトのデータに反映させ、最新情報の提供に努めた。

- ①後発医薬品の調剤回数は全医薬品対比46.2%、調剤数量は同42.5%、薬剤料は同16.9%で、それぞれ増加していた。
- ②全処方箋に占める一般名処方を含む処方箋の割合は52.8%と推測された。
- ③後発医薬品の備蓄品目数は、後発医薬品調剤体制加算1の薬局が463品目、体制

加算 2 の薬局が 500 品目、体制加算 3 の薬局が 434 品目、体制加算を届出ていな  
い薬局が 434 品目であった。

④汎用医薬品における後発医薬品変更率は、アロプリノール錠 84.3%、レバミピド  
錠 78.6%、アムロジピン錠 77.7%、ロキソプロフェン Na 錠 73.7%、ファモチジ  
ン錠 75.2%、カルボシステイン錠 73.1%、テプレノンカプセル 71.3%、ランソブ  
ラゾール錠・カプセル 79.6%、トラネキサム酸錠・カプセル 74.7%、エチゾラム  
錠 53.5%、カルボシステインシロップ 56.2%、カルボシステインドライシロップ  
57.9%、ツロブテロールテープ 47.3%、ラモトリギン錠 54.6%、ナルフラフィン  
塩酸塩錠・カプセル 41.2%、フレカイニド酢酸塩錠 21.5%、ミノドロン酸錠 36.3%、  
エタネルセプトキット 3.3% であった。

#### (5) 医薬品・情報管理センターを核とした医療用医薬品分譲業務の調査

管理センターの医薬品小分け分譲の利用状況は、【資料 4】のとおりであった。

#### (6) 医薬品・情報管理センター運営に関する支援

平成 24 年度より全医薬品・情報管理センターの開設者が地区薬剤師会となったこ  
とから、「平成 24 年度管理センター所長・実務担当者会議」において、医薬品・情  
報管理センター設置運営基準を示し、「医薬品・情報管理センターの設置及び運営に  
関する覚書」を平成 25 年度に各センターと取り交わし、地区薬剤師会が運営する医  
薬品・情報管理センター運営要綱の提出を受け、当会にて確認保管を行い現在に至  
っている。

### 8. 薬事衛生・公衆衛生事業

#### (1) 都民に対する一般用医薬品等の適正使用の啓発とお薬相談会の実施

(2-7(1) 「健康サポート薬局の役割、かかりつけ薬剤師・薬局の役割等、各種  
事業の都民への周知」の項参照)

#### (2) 『薬事関係法規教本』等の作成と講習実施

平成 30 年度も東京都の委託を受けて、薬事関係法規教本、自主点検表を作成し、  
地区薬剤師会を通じて各会員薬局・店舗に配布した。また、薬事衛生自治指導員に  
対して下記のとおり講習会を実施し、「薬事関係法規教本 2018 年版」や自主点検表  
の内容説明のほか、巡回指導時の留意事項や報告書の記載方法等について説明を行  
った。

## 【薬事衛生自治指導員全体講習会】

期　日：平成 30 年 9 月 8 日(土) 19:00～20:30

場　所：連合会館 大会議室

受講者：262 名

内　容：

最近の薬務行政について

東京都福祉保健局 健康安全部

薬事監視担当課長 河野 安昭

薬事関係法規教本 2018 年版について

東京都薬剤師会 薬事委員会 委員長 関口 博通

自治指導事業と巡回指導について 東京都薬剤師会 理事 関根 克敏

平成 30 年 1 月に、日本薬剤師会が薬剤師倫理規定の見直しを行い、「薬剤師行動規範」を制定したことから、薬剤師として、また医療人としてあるべき姿を啓発するため、行動規範及び解説全文を掲載した。

また、前年発行した「2017 年追補版」の内容を正本に反映したほか、発行以降の改正点等について追記し、関係法令の周知を行った。

自主点検内容については、昨年同様、薬と健康の週間の時期に、実際に巡回して相互チェックを実施し、不備な点があればその場で改善いただくよう解説した。また、薬局間における医療用医薬品の譲受・譲渡の際に必要事項を書面に記載し、記録を保管しているかどうかが、重点確認事項に追加されたことが説明された。

なお、薬事法改正により新たな医薬品販売制度が開始されて以降、厚生労働省は、要指導医薬品・一般用医薬品の販売にあたり、一般消費者の立場から制度の定着状況等を点検・調査し、医薬品販売の適正化につなげることを目的として、平成 21 年度から毎年、医薬品販売制度実態把握調査を実施している。これに伴い、日本薬剤師会においても、現場の会員薬局・店舗の医薬品販売制度における法令遵守状況の確認を目的として、「医薬品販売制度対応に関する自己(自主)点検」を実施しているが、ことし平成 30 年度は、日本薬剤師会の自己点検に対応し、集計結果を報告した。

### (3) 医薬品医療機器等法の定着のための施策の実施

薬局の管理者の遵守事項全般にわたる研修会として、管理薬剤師研修会を以下のことおり開催した。

## 【管理薬剤師研修会】全 4 講座

期　日：①10 月 25 日(木) ②11 月 8 日(木) ③11 月 22 日(木) ④12 月 1 日(土)

場　所：①②③都薬会館 3 階会議室

④連合会館 201 会議室

受講者：34名（うち全講義受講者30名）

内 容：

「情報」を活用する 一生涯学習と医薬品情報一

東京都薬剤師会 理事 石川 さと子

介護保険制度 東京都薬剤師会 理事 根本 陽充

東京都の最近の薬事行政について（偽造医薬品対策他について）

東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課 監視指導担当 渡辺 大介  
健康サポート薬局について 東京都薬剤師会 理事 関根 克敏

薬事関係法規

東京都福祉保健局 健康安全部 薬務課 監視計画担当 光川 篤志  
一般用医薬品の販売について

～かかりつけ薬剤師・薬局の充実をめざして～

東京都薬剤師会 常務理事 一瀬 信介

患者のための薬局ビジョン・医薬品医療機器等法改正を踏まえ

管理薬剤師が知っておくべきこと

東京都薬剤師会 副会長 永田 泰造

医療安全

東京都薬剤師会 理事 濱野 明子

グループディスカッション

修了証授与

#### （4）薬物乱用防止啓発事業への協力

都内の青少年を対象に薬物に対する正しい知識及び乱用の恐ろしさや弊害を啓発するため、東京都の委託を受け、各地区において青少年薬物乱用防止講習会が実施された。70名の薬物専門講師等を含む本会会員により小中学校、高等学校、大学や専門学校等で、226回の講習会が実施され、延べ22,594名が受講した。会員学校薬剤師による担当校における薬物乱用防止講習会も着実に実施されており、本会に実施報告があった担当校での報告数をあわせると250回の講習会が実施され、延べ25,105名が受講したこととなる。

#### 【平成30年度 薬物乱用防止講習会 実施報告数】

	担当校以外で本会会員が実施した薬乱防止講習会	担当校で会員学校薬剤師が実施した薬乱防止講習会*	報告数合計
講習会実施回数	226	24	250
受講者人数	22,594	2,511	25,105

\*70名の薬物専門講師のうち10名と、学校薬剤師6名から担当校で実施した薬乱防止講習会実施についての報告による

東京都が実施している「薬物専門講師証明制度」の周知に努め、交付申請に係る事務を行い、交付が円滑に行われるよう協力した。今年度、申請のあった会員のうち証明の要件を満たす 17 名に薬物専門講師証明書が交付された。これにより、東京都が実施している薬物専門講師証明制度による本会会員の有効期限内証明書交付者数は平成 30 年 10 月 1 日現在、88 名となった。

また、東京都の薬物乱用防止対策への協力依頼を受け、「東京都大麻・けし撲滅運動啓発ポスター」「薬物乱用防止啓発用リーフレット」「麻薬・覚醒剤乱用防止運動啓発用ポスター・リーフレット」等を各地区・職域薬剤師会に配布した。

平成 30 年度、本会では、小学校高学年を対象とする本会公衆衛生委員会作成の「薬物乱用ダメ！ゼッタイ！」フラッパー型の啓発資材を 2 万部増刷した。本資材は本会 4 地区の薬剤師会をはじめ、学校薬剤師 9 名、東京都薬物乱用防止推進協議会等に計 6 千部を頒布し、薬物乱用防止講習会等で今年度も広く活用された。

#### (5)都民に対する受動喫煙対策の周知徹底と啓発

2018 年 4 月、東京都が子供を受動喫煙から守る条例を全国に先駆けて施行したことを受け、東京都薬剤師会では、小学校高学年を対象とした、受動喫煙に関するフラッパー型啓発資材「受動喫煙に NO!!」を 2 万部作成した。本資材は、小学校での禁煙防止教室や平成 30 年度「くすりと健康の週間」における都内街頭相談所等でも配布され、各地区的受動喫煙対策の周知や啓発活動で活用された。

また、東京都からの協力依頼を受け、「東京都受動喫煙防止条例」PR ポスターを各地区・職域薬剤師会に配布し、周知に努めた。

#### (6)健康日本 21(第二次)に基づいた、都民に対する健康増進活動への協力と推進

健康増進法に基づき策定された、国民の健康の増進の総合的な推進を図るために基本的な方針の具体的な計画である健康日本 21(第二次)に基づき、都民に対し会員が講習会等を通じて、その健康増進活動の協力や推進を啓発・支援するための資材「市民講習会用テキスト『くすりの正しい使い方』『タバコと健康』『アルコールと健康』『健康関連機器について』」のパワーポイントスライドを都薬会員用ホームページ「学校薬剤師活動支援情報」Web サイト上に公開するとともに、望まない受動喫煙のない社会の実現を目指し、フラッパー型啓発資材「受動喫煙に NO!!」を作成し、健康増進活動の推進に努めた(8. (5)「都民に対する受動喫煙対策の周知徹底と啓発」の項参照)。

#### (7)『薬と健康の週間』事業の実施

「薬と健康の週間」(10月17日～23日)において、日本薬剤師会、厚生労働省、東京都及び関係機関と協調し都内47地区で「薬の街頭相談所」を開設した。街頭相談所と薬局等に下記のポスターをはじめ各種資料を配布し、都民に対して、薬の正しい使い方等の啓発並びに情報発信を行った。

#### 【ポスター、資料等の配布】

「薬と健康の週間」(ポスター)—1薬局/店舗1枚

「薬の無料相談」(ポスター)—1会場2枚

「薬との上手なつきあい方」—1会場100部(1薬局/店舗5部)

「知っておきたい薬の知識」—1会場200部(1薬局/店舗3部)

「東京都薬局機能情報提供システム t-薬局いんふお」—1会場300枚

(1薬局/店舗2部)

「地下鉄路線図」都薬作成—1会場300枚(1薬局/店舗80枚)

「薬の相談記録」(個票)—1会場100枚

「健康食品 情報共有シート」—1会場20枚

「受動喫煙にNO!!」—1会場200部

「かかりつけ薬剤師・薬局チラシ」—1会場100枚

「かかりつけ薬剤師・薬局ポスター」—1薬局/店舗1枚

「ご存じですか?うっかりドーピング」—1会場100部

「ジェネリック医薬品Q&A」—1会場60部

「医薬品医療機器総合機構ポスター」—1薬局/店舗1枚

#### 【薬の街頭相談所の開設】

各地区にて47ヶ所の街頭相談所を開設し、薬事に関する無料相談、医薬品・防災などの展示、講習会などを実施し、都民の薬に対する関心に応え、PR効果をあげた。

また、介護相談、薬物乱用防止啓発活動等も実施した。なお、薬事相談については東京都病院薬剤師会の協力を得て実施した。

街頭相談所開設場所は次のとおりである。(カッコ内は地区薬剤師会名)

日本橋、京橋、港区、新宿区、文京区、下谷、浅草、墨田区、江東区、品川区(品川・荏原)、目黒区、大田区、世田谷区(世田谷・玉川砧)、渋谷区、中野区、杉並区、豊島区、北区、荒川区、板橋区、練馬区、足立区、葛飾区、江戸川区、西多摩、八王子市、日野市(南多摩)、多摩市(南多摩)・稲城市(南多摩)、府中市、調布市、狛江市、小金井市(多摩中央)、国分寺市(多摩中央)、立川市(北多摩)、昭島市(北多摩)、国立市(北多摩)、東大和市(北多摩)、武藏村山市(北多摩)、町田市、武藏野市、三鷹市、西東京市(西武)、小平市(西武)、東久留米市(西武)、東村山市(西武)、清瀬市(西武)

#### (8) 自殺防止対策普及啓発活動への協力

「自殺対策基本法」及び「自殺総合対策大綱」に基づき、「誰も自殺に追い込まれることのない社会」の実現に向けた、厚生労働省からの啓発活動及び支援策等の推進協力依頼を受け、地区薬剤師会を通じて広報用ポスター(自殺予防週間並びに自殺対策強化月間)を会員薬局に掲示依頼するとともに、会員薬剤師が自殺対策のゲートキーパーとして地域関係機関と連携の上、各種相談支援等に取り組んでいくよう周知した。また、「自殺総合対策東京会議」へ参加し、意見を具申した。

#### (9) 東京オリンピック・パラリンピックを見据えたアンチ・ドーピング活動への協力

都内のスポーツ選手等の相談を受け付ける都薬アンチ・ドーピングホットラインには、624件の相談があり、薬事情報課における全問合せ数の61.0%を占めている。アンチ・ドーピング活動について、本年度も東京都より「医薬品の適正使用推進事業」として助成を受けており、会員薬局に対し「薬剤師のためのアンチ・ドーピングガイドブック2018年版」を地区薬剤師会を通して配布した。

「アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会」は、各地区薬剤師会代表者と情報共有をすることを目的に本年度も開催した。

公認スポーツファーマシストへの活動支援として、「公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会」を開催し、都内のみならず、他県から多くのスポーツファーマシストの参加を得た。

その他、ドーピング防止のための資材として、一般向け啓発パンフレットの配布を行った。

#### 【2018年度アンチ・ドーピング活動地区薬剤師会指導者講習会】

期 日：平成30年10月20日(土) 15:30～18:35

場 所：エッサム神田ホール 2号館 601号室

受講者：38名

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

アスリートが望むこと 薬剤師ができること

東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング活動推進ワーキンググループ

委員 松島 美菜

墨田区におけるアンチ・ドーピング活動

墨田区薬剤師会 オリパラ委員会 倉重 友和

グループ討議 司会：アンチ・ドーピング活動推進ワーキンググループ

副委員長 瀬谷 雅行

各地区におけるアンチ・ドーピング活動の現状

2020年に向けてとりくみたいこと

地区薬剤師会におけるアンチ・ドーピング活動の状況に関する

アンケート報告

東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング活動推進ワーキンググループ

委員 原山 真理子

まとめ 東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング活動推進ワーキンググループ

委員長 小林 百代

閉会挨拶

東京都薬剤師会 常務理事 高橋 正夫

#### 【公認スポーツファーマシストのためのアンチ・ドーピング講習会】

期 日：平成31年1月20日(日) 13:00～16:00

場 所：日本教育会館 一つ橋ホール

受講者：284名

内 容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

福井しあわせ元気国体 2018 福井県薬剤師会によるアンチ・ドーピング活動

福井県薬剤師会 アンチ・ドーピング委員会

委員長 鳴瀬 みどり

アンチ・ドーピングに関する最新の情報提供

日本アンチ・ドーピング機構 専務理事 浅川 伸

日本におけるドーピングの防止活動について

～ドーピング調査を中心として～

日本スポーツ振興センター・スポーツインテグリティ・ユニット

アンチ・ドーピンググループ グループ長 西村 和彦

世界にはばたくパラアスリートの育成

日本パラ陸上競技連盟 普及振興委員 副委員長

シオヤレクリエーションクラブ 理事長 塩家 吹雪

パラスポーツをもっと身近に

シオヤレクリエーションクラブ所属

T37 脳性麻痺(片麻痺)クラス

100m・200m・400m・4×100mリレー 日本記録保持者 吉川 琴美

パネルディスカッション

パネラー：全講演者

座長 東京都薬剤師会 アンチ・ドーピング活動推進ワーキンググループ

閉会挨拶

副委員長 濑谷 雅行  
東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

#### (10) 感染症及びアレルギー疾患の医療体制対策の推進

東京都アレルギー疾患対策検討委員会に委員として参画し意見具申を行い、感染症及びアレルギー疾患の医療体制対策並びに東京都アレルギー疾患対策推進計画について着実な推進に向けた検討を行なった結果、平成31年2月27日には、東京都アレルギー疾患医療拠点病院及び東京都アレルギー疾患医療専門病院の公表に至った。

### 10. 組織強化対策

#### (1) 会員増加策の検討

会員増強策の一環として、地区薬剤師会の運営や会員・会費のあり方について検討を行うため、薬剤師会に向けたアンケート調査を実施した結果を基に、取りまとめを行い、3月に開催した地区職域薬剤師会会長会において、情報提供を行った。また、魅力ある会員向け事業等について、引き続き検討を行った。その他、本会の広報等を目的に、平成23年3月に運用を開始した「とやく携帯メルマガ」は、平成31年3月31日現在、通算1939号の配信を達成した。

#### (2) 公益法人制度への対応

平成25年4月1日に公益社団法人として登記して以後、新法人法に基づく定款並びに諸規程の定めに則って会務を遂行している。

定款及び法人法の定めにより、令和元年6月の通常総会終了を以て任期満了となる役員について、役員選考規程及び会長候補者・副会長候補者の選出に関する規則に基づく次期正副会長候補者の選出のため、役員選挙管理委員会委員長名で平成31年2月1日に選挙実施を公示し、第94回臨時総会(31年3月23日開催)において、次期会長候補1名、次期副会長候補4名が選出された。

また、2年ごと7月末日までに実施する旨の定款及び法人法の定めにより、令和元年6月に実施する代議員・予備代議員選挙について、代議員選挙規程に則り、代議員選挙管理委員会委員長名で平成31年3月1日に選挙実施を告示、立候補期限を4月1日として選挙区ごと立候補を受け付けた。代議員選挙は実施期間を令和元年6月1日から6月30日として、選挙区ごとに実施される。

平成30年11月12日には、公益法人設立以来2回目となる、東京都生活文化局による認定法に基づく立入検査を受け、当日の指導事項を踏まえ、以後の事務処理、

手続き等を改めることとした。

### (3)会員管理システムの維持と拡充

会員管理システムの安定的な運用を目的に、本年度も引き続き、各種情報処理機器の整備・拡充を行った。

### (4)インターネット等を活用した本会と地区・職域薬剤師会間の連携強化

平成19年2月より、地区職域薬剤師会において、地区職域薬剤師会会长会資料を有効に活用いただくため、電子データによる提供を開始し、本年も引き続き実施した。また、平成25年度に運用を開始した、地区薬剤師会への電子メールによる情報配信システムを活用し、タイムリーな情報伝達に努めた。さらに、平成27年4月1日にリニューアルしたホームページについても、適宜更新を行い、会員への情報提供に努めた。

### (5)職種部会(製薬部会・卸勤務薬剤師部会・行政薬剤師部会)活動への支援

各事業などにおいて、連携を図り支援を行った。

### (6)学校薬剤師活動への支援と地区担当者会議及び

#### 日本薬剤師会学校薬剤師東京ブロック連絡会議の実施

学校薬剤師活動の支援及び各地区薬剤師会学校薬剤師担当者等との連絡調整、連携強化を目的として、「学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当者会議」を下記のとおり開催した。

本会議は平成25年度より本会が開催してきた「学校薬剤師担当者会議」に該当し、平成27年からは日本薬剤師会学校薬剤師部会事業等の周知とブロック内の情報共有及び意見交換等を目的とした日本薬剤師会「学校薬剤師東京ブロック連絡会議」と共に開催している。

平成30年度の会議では、日本薬剤師会学校薬剤師部会から活動の現状等が報告された後、文部科学省総合教育政策局より、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、青少年の非行・犯罪被害の増加が予測されることを受け、「青少年のスマートやSNS等をめぐる問題や薬物等の依存症防止に向けた取組」について講演があり、学校薬剤師の立場から、インターネット利用に係る犯罪被害や子供の性被害の防止への取組と薬物乱用防止対策の推進への協力依頼がなされた。

都内全ての学校薬剤師が、格差のない統一した活動を実施することを目的に、平成29年度に実施した「学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査～ダニ・ダニアレルゲン～」の検査結果について報告があり、検査に関する指導・

助言が各地区薬剤師会で概ね適切に実施されている実態が明らかにされた。調査結果は【資料5】のとおりである。平成30年度は「ダニ・ダニアレルゲン検査」に加え、「水泳プールに係る水質検査」について各地区薬剤師会に調査を依頼した。

また、本会議において東京都薬剤師会公衆衛生委員会作成の、小学校高学年を対象とした、受動喫煙に関するフリッパー型啓発資材「受動喫煙にNO!!」を配布し、小学校での禁煙防止教室などで活用いただくよう紹介した。

#### 【学校薬剤師東京ブロック連絡会議及び担当者会議】

期　日：平成30年11月29日(木) 18:00～20:25

場　所：フォーラムミカサ エコ7階ホール

出席者：各地区薬剤師会学校薬剤師担当役員・学校薬剤師活動に関して指導的立場にある学校薬剤師で本会会員 68名

内　容：

開会挨拶 東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

日本薬剤師会代表挨拶 日本薬剤師会 副会長 乾 英夫

学校薬剤師部会活動の現状報告と課題等について

～学校薬剤師活動の充実等に向けて～

日本薬剤師会 学校薬剤師部会長 村松 章伊

青少年のスマホやSNS等をめぐる問題や薬物等の依存症防止に  
向けた取組について

文部科学省 総合教育政策局

男女共同参画共生社会学習・安全課推進係長 佐々木 浩

学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査

～『平成29年度 ダニ・ダニアレルゲン検査』結果報告と

～『平成30年度 水泳プールに係る水質検査』の実施～

東京都薬剤師会 理事 関根 克敏

東京ブロックにおける学校薬剤師活動等に関する協議

閉会挨拶 東京都薬剤師会 副会長 大木 一正

#### (7)講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

研修会・講習会担当役員打合せ会及び役員会での検討を踏まえ、平成30年度の活動テーマを「薬剤師行動規範に基づく薬剤師の使命の随行と薬局業務の再確認」に決定し、各研修会・講習会は、このテーマに沿って企画・実施された。

#### (8)講習会・研修会実施における担当部署間の連携強化

研修会・講習会担当役員打合せ会及び役員会での検討を踏まえ、平成30年度の活動テーマを「薬剤師行動規範に基づく薬剤師の使命の遂行と薬局業務の再点検」に決定した。各研修会・講習会は、このテーマに沿って企画・実施された。

## 10. 災害時等における医療救護対策

### (1) 災害時等、医療救護体制の整備

東京都は東日本大震災での教訓を踏まえ、都内での大規模災害発生時における医療機能の円滑な確保のため、平成24年度より都内12ヶ所に二次保健医療圏を単位とした「地域災害医療連携会議」を設置した。この連携会議に当会から役員が各自出席した。

### (2) 災害時医療救護に係る災害薬事コーディネーターの養成及び実務講習会の開催

災害時における薬剤師の役割、病院と薬局・薬剤師と多職種の連携、東京都の災害対策の方針、災害医療の特殊性等を理解し、災害薬事コーディネーターとして地域での災害医療に貢献できる薬剤師リーダーの知識を習得することを目的とした「災害時薬事活動リーダー研修」を2回実施した。当該研修では東京都病院薬剤師会、東京医薬品卸業協会と共に講義、スマートループでの図上訓練を行った。

#### 【災害時薬事活動リーダー研修】

期 日：第1回 平成30年7月29日(日) 9:30～17:00

第2回 平成30年11月18日(日) 9:30～17:00

場 所：第1回 日本教育会館(千代田区)

第2回 慶應義塾大学芝共立キャンパス(港区)

参加者：第1回 34名

(地区薬剤師会14名、東京都病院薬剤師会10名、東京医薬品卸業協会10名)

第2回 339名

(地区薬剤師会17名、東京都病院薬剤師会10名、東京医薬品卸業協会12名)

対象地区：第1回 墨田区、杉並区、練馬区、立川市、八王子市

第2回 目黒区、渋谷区、世田谷・玉川砧、中野区、西武

内 容：東京都の災害医療体制・医薬品等供給等について

災害時における医薬品卸売販売業者の活動

医療ガス・医療ガス設備の災害対策

自衛隊の医療救護活動について

薬剤師班の活動について

## グループワークによる図上訓練

### (3)防災訓練への参加協力

東京都では、東京湾北部を震源とする非常に強い地震が発生、都内の広い範囲で震度5強以上、その中で都内東部地区では震度6弱を記録した想定で、平成30年9月2日(日)に「平成30年度東京都・中央区・港区合同総合防災訓練」を実施した。

当訓練において、東京都福祉保健局 健康安全部では「医療救護活動訓練」を行った。本会は災害対策基本法に基づく指定地方公共機関となっており、本部役員、災害対策委員会、中央区日本橋、京橋両地区及び港区地区より薬剤師班を6班編成し、訓練参加した。浜町公園会場(中央区)、お台場学園港陽小・中学校会場(港区)において、災害薬事センター、医薬品調剤所を設置し、医薬品等供給訓練(医薬品等供給要請訓練・医薬品搬入訓練)、調剤訓練、OTC供給訓練を行い、浜町公園会場ではトリアージ訓練に参加した。

### (4)大災害時における薬局BCP(事業継続計画)の更新

災害発生時の薬剤師の活動として、薬局では限られた資源で営業の継続または早期の再開が必要になるため、各地区薬剤師会の実情に応じた業務継続計画(BCP)の作成用ひな型をホームページに掲載、維持・管理した。

### (5)災害時等における地区支援のための事務局機能維持体制の見直し

災害時に会員の安否確認を迅速に行うため、平成28年度に総合警備保障株式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」を契約し、インターネット網を利用した電子メールでの連絡システムを採用した。平成30年度は、地区薬剤師会に対し、システムの理解、使用方法及び加入の薦め及び活用方法の説明を行い、予行演習を兼ねたテスト配信を行い、災害時の備えとした。

### (6)東京都国民保護計画への体制整備

平成19年3月に作成した「国民保護業務計画」の役員・職員連絡網についてインターネット網での電子メールを利用した、総合警備保障株式会社提供の「ALSOK 安否確認サービス」の導入、連絡試験を実施した。

### (7)新型インフルエンザ等対策の推進

平成21年に発生した新型インフルエンザの急速な流行拡大を受け、東京都は新型インフルエンザ患者の国内発生に備え、関係諸機関と連携を図りながら抗インフルエンザウイルス薬等の安定供給等、必要な対策について協議を行っている。東京都

が実施する新型インフルエンザ等感染症地域医療体制整備事業に協力し、医療提供体制の確保を図った。また平成 25 年に施行された、新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく特定接種(医療分野)の事業者登録、申請方法等を周知し、季節性インフルエンザ対策として、東京都で作成したインフルエンザ対策普及啓発用ポスター等の配布に協力した。

## 12. 会員奉仕事業

### (1) 学術出版物等の斡旋

平成 30 年度中に約 5,900 冊、会員価格にして約 2,351 万円余の書籍の斡旋を行った。主な書籍斡旋数は「薬局実務実習指導の手引き 2018 年版」、「保険調剤 Q&A 平成 30 年版」、「今日の治療薬 2019」、「治療薬マニュアル 2019」などであった。

また、各種研修会に出版社に出店を求め、会員の学術出版物入手の便宜を図った。

### (2) 共済制度の運営

東京都薬剤師会共済会の加入者は、平成 31 年 3 月末日現在 181 名(191 口)であり、30 年度は慶弔金として 6 件の対象があった。また、日本薬剤師会共済部への加入手続きを含む各種手続きについても事務を代行した。

### (3) 制度融資の紹介・斡旋

日本薬剤師会が提携する各銀行よりの制度融資「日本薬剤師会薬局ローン」について、問い合わせに応対し資料を送付するなどの紹介を行った。

### (4) 企業年金保険等及びがん保険の斡旋

会員の厚生事業として、企業年金保険(明治安田生命・ジブラルタル生命・3 月末日現在 4 名)及びがん保険(アメリカンファミリー、3 月末日現在の加入 75 件)の団体契約を継続した。

### (5) 薬剤師賠償責任保険制度の周知と加入促進

日本薬剤師会薬剤師賠償責任保険への加入について、地区職域薬剤師会会长会及び本会ホームページへの掲載等により勧奨した。なお、平成 30 年 3 月末日での契約数は、薬局契約数 2,140 件、薬剤師契約数 507 件、総数：2,647 件であった。また、個人情報漏えい保険の契約数は 932 件、薬剤師休業補償保険の契約数は、32 件であった。

## (6) 薬剤師年金並びに薬剤師国民年金基金の斡旋

日本薬剤師年金への加入について、会員の入会時に加入を案内する等必要な手続きを行った。都薬会員のうち平成31年3月末日現在の加入者は222名である。また、日本薬剤師国民年金基金についても加入を奨励し、新規加入及び加入継続に必要な手続きの案内を行った。

## 12. その他

### (1) 公益社団法人日本薬剤師会の諸施策に対する協力と意見具申

かかりつけ薬剤師・薬局、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携、調剤報酬・診療報酬改定等について、日本薬剤師会総会において意見具申するとともに、日本薬剤師会が実施する各種事業に協力した。

### (2) 日本薬剤師会関東ブロック薬剤師会との連携

関東ブロック(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、神奈川県、山梨県の各都県薬剤師会)の連携を強化するため、下記関東ブロック会議に出席し日本薬剤師会総会開催にあたり日本薬剤師会の事業について協議し、連携の強化を図った。

第1回：平成30年5月20日(主催：茨城県薬剤師会)

第2回：平成31年2月17日(主催：千葉県薬剤師会)

### (3) 一般社団法人東京都病院薬剤師会との連携

各種事業に対し意見・情報交換を行った。『薬と健康の週間』事業における街頭相談、また、『認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応』事業の一環である、「認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ(4回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計35名、及び「認定実務実習指導薬剤師のためのアドバンストワークショップ(10回開催)」における東京都病院薬剤師会会員 修了者計150名の研修など、相互協力を行った(2-1 (6)「認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応」の項参照)。

また、薬局薬剤師と病院薬剤師の相互の理解を深め、より一層密な連携体制を構築できるよう、研修会「平成30年度 薬・薬連携推進研修会」及び「臨床推論推進特別委員会公開講座～薬・薬連携シンポジウム～」を東京都病院薬剤師会との共催により開催した(2-4 (3)「切れ目のない薬物療法の提供に向けた薬・薬連携の推進」の項参照)。

#### (4)一般社団法人東京都学校薬剤師会との連携

学校薬剤師活動に対し意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。

#### (5)東京都並びに関連官公庁への協力と意見具申

東京都福祉保健局をはじめ関係官庁に対しては、薬事制度・公費負担医療制度等に関連して連絡を密にし、各種事業に対しては可能な限りの支援・協力を行った。

#### (6)公益社団法人東京都医師会・公益社団法人東京都歯科医師会との連携

東京都医師会・東京都歯科医師会とは、意見・情報交換を行い、各種事業に対する相互協力を行った。また、平成28年度から、三師会の会員に向けた講演会を年1回開催し、更なる連携強化に向けた取組みを行っている。平成30年度は、東京都医師会が幹事団体として、以下の講演会を開催した。

##### 【東京都三師会講演会】

期 日：平成31年3月20日(水) 18:00～19:20

場 所：東京都医師会館 2階講堂

内 容：

挨拶

東京都医師会 会長 尾崎 治夫

東京都歯科医師会 会長 山崎 一男

東京都薬剤師会 会長 石垣 栄一

講演 「心房細動の診断と治療・抗凝固薬の使い方」

日本医科大学 医学研究科 循環器内科学分野

大学院 教授 清水 渉

質疑応答

閉会の辞

東京都医師会 副会長 角田 徹

#### (7)公益財団法人日本薬剤師研修センター事業への協力

東京都薬剤師研修協議会として、研修認定薬剤師証の交付申請等を行い、日本薬剤師研修センターが進める薬剤師生涯教育事業に協力した。平成30年度における研修認定薬剤師証の申請数は2,872名(内訳：新規申請数1,701名、更新申請数1,171名)であった。

【参考：平成29年度 研修認定薬剤師証申請数5,972名(内訳：新規申請数4,805名、更新申請数1,167名)】

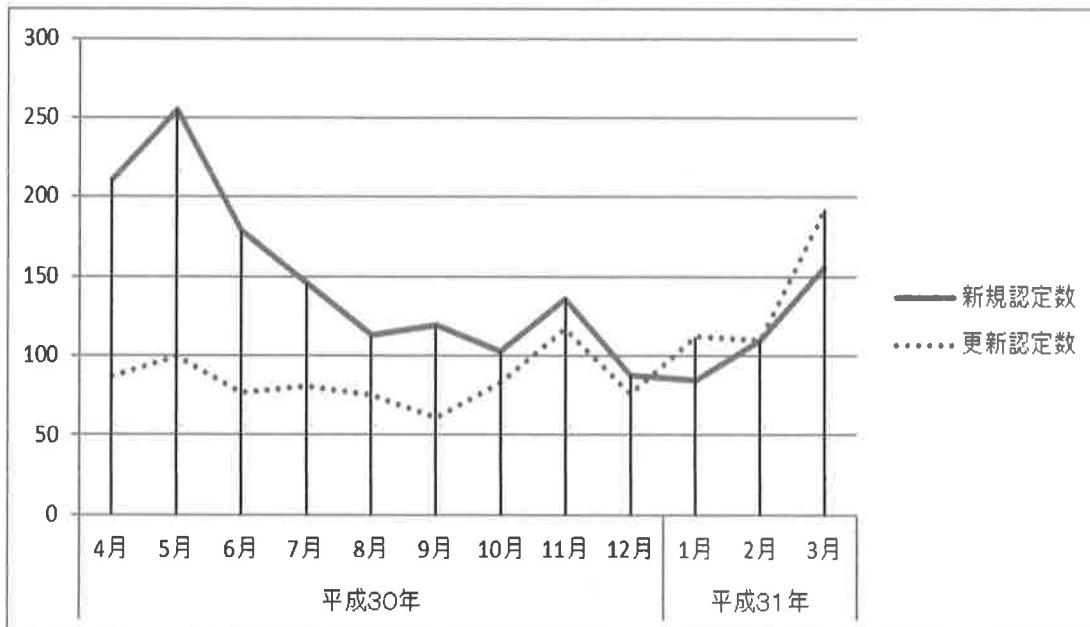
また、(公財)日本薬剤師研修センターが実施する、認定実務実習指導薬剤師認定制度に則り、認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ並びに認定実務実習指導

薬剤師養成講習会・更新講習会を開催した(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応」の項参照)。講習会開催時には認定実務実習指導薬剤師認定制度実施要領の一部改正について資料配布の上、説明を行うなど、その周知に努めた。

#### 【平成30年度における研修認定薬剤師証申請数(平成30年4月～平成31年3月)】

	平成30年									平成31年			合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
新規申請数	211	255	179	146	113	119	103	136	88	85	110	156	1,701
更新申請数	87	100	77	81	75	61	83	117	76	112	110	192	1,171
申請数計	298	355	256	227	188	180	186	253	164	197	220	348	2,872

#### 【平成30年度における研修認定薬剤師証の申請数の推移】



#### (8)一般社団法人薬学教育協議会 病院・薬局実務実習 関東地区調整機構との連携

薬学教育協議会 病院・薬局実務実習関東地区調整機構(以下、関東地区調整機構)が推進する安定した実務実習受入れ体制の維持並びに平成31年からの改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の実施に向けて、関東地区調整機構が運営する各種事業(認定実務実習指導薬剤師養成事業並びに実務実習施設割振調整事業等)に対する支援・協力を行った(2-1(6)「認定実務実習指導薬剤師の養成及び改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムへの対応」の項 及び 2-2(3)「実務実習受入れ態勢の整備」の項参照)。

### (9)都内薬科大学・大学薬学部との連携

薬学教育に関する各種事業に対し意見・情報交換を行った。薬学教育 6 年制課程における長期実務実習の適切な実施への支援・協力をを行うとともに、本会が開催する講習会等への支援・協力など、相互協力を行った。

また、今年度より新たな事業として本会が実施した「地域薬局への薬学生就職対応事業」に関しても相互協力を行った(12.(13)「地域薬局への薬学生就職対応事業」の項参照)。

### (10)各関連団体・友好団体との交流・連携及びその強化

東京都薬剤師国民健康保険組合、一般社団法人東京医薬品卸業協会、公益社団法人東京医薬品工業協会、公益社団法人東京都医薬品登録販売者協会、公益社団法人東京薬事協会、公益社団法人東京生薬協会 等の関連諸団体と連携を保ちながら協調を図った。

### (11)都薬会館の保守等

都薬会館内の照明設備に使用されている PCB 含有製品について、PCB 廃棄物特別措置法に基づく法定処理期限が令和 5 年 3 月末日に定められたため、期限内の廃棄に向けて、照明設備からの撤去、指定廃棄場所への搬入荷姿登録を行い、現在は搬入の順番待ちの状況にある。なお、対象の廃棄物は法定の荷姿にして厳重に保管している。

また、PCB 含有製品の取り外しに併せて、会館内の各フロアの照明を LED 照明に交換した。

### (12)その他の会員サービス

#### 【会員向け年会費無料クレジットカードの斡旋】

都薬会員ならば年会費が無料となる VISA ゴールドカードの発行を三井住友カード社と提携し、平成 20 年 11 月から会員に対して斡旋し、平成 31 年 3 月末日までに 238 名の会員に対して 322 枚が発行されている。

### (13)地域薬局への薬学生就職対応事業

第 92 回臨時総会において要望のあった、新卒者を含む求職薬剤師と会員の所属する薬局のマッチング事業について、7 月に本会担当役員及び都内の 9 大学の教員から構成される、「地域薬局への薬学生就職対応事業ワーキンググループ」を設置し、以下の取り組みを行った。

同ワーキンググループにおいて、9 大学（慶應義塾大学薬学部、昭和大学薬学部、

昭和薬科大学、帝京大学薬学部、帝京平成大学薬学部、星薬科大学、明治薬科大学、武藏野大学薬学部、北里大学薬学部) の学内業界研究会等へ順次参加し、合計 169 名の学生に、東京都薬剤師会として地域に密着した薬局の取り組みや、就職先として選択する際の魅力を学生に伝え、参加した学生からなされた多くの質問や相談に応じた。

また、新卒の学生の採用を希望する、会員が所属する薬局に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局として 24 時間対応や在宅業務に取り組んでいること、インターンシップの実施等、一定の条件を設けて求人情報の募集を行った。当該条件を満たした 54 店舗の薬局の求人情報を、都内 10 大学の就職担当部署へ提供し、学生が事務室等で隨時閲覧できるよう対応を行った。

## 【資料1】

## 平成31年3月末日現在 地区及び職域薬剤師会別 会員数

(人)

地区 薬剤師会	現在会員数				地区 薬剤師会	A	B	賛助	合計
	A	B	賛助	合計					
千代田区	83	8		91	西多摩	118	37		155
日本橋	35	17	1	53	八王子市	162	150	1	313
京 橋	50	10	3	63	南多摩	125	64	1	190
港 区	120	21	3	144	町田市	116	43		159
新宿区	152	43		195	府中市	91	4		95
文京区	107	38	2	147	調布市	68	14		82
下 谷	46	13		59	狛江市	26	6		32
浅 草	69	24		93	多摩中央	54	9	1	64
墨田区	98	20		118	北多摩	148	40		188
江東区	130	42	1	173	武藏野市	64	36	1	101
品 川	88	26		114	三鷹市	42	9	2	53
荏 原	72	25	2	99	西 武	217	74		291
目 黒 区	94	27	1	122					
大 田 区	220	83	3	306	中 計	4,470	1,431	39	5,940
世 田 谷	113	24	2	139					
玉 川 砧	127	52	3	182	職 域 薬剤師会	現在会員数			
渋 谷 区	90	10	2	102		A	B	賛助	合計
中 野 区	117	31	2	150	病 院	0	220	0	220
杉 並 区	175	77	1	253	都立病院施設	0	22	0	22
豊 島 区	110	21	1	132	大正製薬	0	4	0	4
北 区	137	20		157	佐藤製薬	0	24	0	24
荒 川 区	79	12		91	エヌエス製薬	0	22	0	22
板 橋 区	200	73		273					
練 馬 区	207	71	3	281	小 計	0	292	0	292
足 立 区	185	47	1	233					
葛 飾 区	159	83	2	244	直 扱	49	760	22	831
江 戸 川 区	176	27		203					
					合 計	4,519	2,483	61	7,063

## 【資料2】

## 平成30年度 地区薬剤師研修会 受講者数

行政 区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
千代田区	千代田区	16	31
中央区	日本橋	18	18
	京橋	14	17
港区	港区	30	34
新宿区	新宿区	48	58
文京区	文京区	48	47
台東区	下谷	29	26
	浅草	22	27
墨田区	墨田区	33	41
江東区	江東区	47	55
品川区	品川	40	41
	荏原	30	37
目黒区	目黒区	41	32
大田区	大田区	84	90
世田谷区	世田谷	66	67
	玉川砧	73	68
渋谷区	渋谷区	41	40
中野区	中野区	76	81
杉並区	杉並区	121	118

行政 区	地区薬名	受講者数	
		第1回	第2回
豊島区	豊島区	35	44
北区	北区	36	45
荒川区	荒川区	30	38
板橋区	板橋区	104	110
練馬区	練馬区	127	141
足立区	足立区	72	73
葛飾区	葛飾区	79	82
江戸川区	江戸川区	58	49
多摩第一	多摩中央	16	31
	武藏野	26	33
	三鷹	20	22
多摩第二	府中	35	17
	調布	15	12
	狛江	13	13
多摩第三	北多摩	57	72
	西多摩	47	44
多摩第四	八王子	109	122
	南多摩	57	58
	町田	31	27
多摩第五	西武	73	80

第1回 第2回

合 計		1,917	2,041
-----	--	-------	-------

		36		28		36		18
	II-a 地域連携研修会		II-b 無菌調剤室施設実地研修		III-b 地域包括支援センターと 連携した住民向け講習会		IV-b 地域包括ケアシステムの構築 に向けた多職種連携連絡会	
	場 所	人 数	場 所	人 数	場 所	人 数	場 所	人 数
1 千代田区								
2 日本橋	久松町区民館 4階 多目的室	21名			日本橋保健センター	30名	中央区役所8階大会議室	48名
3 京橋	久松区民館	6名			中央区保健所	20名		
4 港区	東京都済生会中央病院7階第一会議室	37名			介護予防総合センター	75名		
5 新宿区	東新宿保健センター2階	44名	大久保病院	5名				
6 文京区	文京区医師会1階ホール	61名	鉄門前薬局	5名	文京シビックセンター	100名	文京区医師会館	51名
7 下谷								
8 浅草	浅草薬剤師会事務所	63名	浅草薬剤師会事務所	2名	地域包括支援センター集会	82名	浅草薬剤師会事務所	34名
9 墨田区	墨田区薬剤師会事務所	21名	都立墨東病院・薬剤科	5名	オウトピアみどり苑他	150名	すみだ産業会館・会議室	47名
10 江東区			昭和大江東豊洲病院薬局	11名				
11 品川	アリアル五反田	20名			大井第3地域センター	14名	品川区医師会館・講堂	42名
12 荏原			荏原薬剤師会管理センター	7名	荏原7丁目町会集会所	46名		
13 目黒区								
14 大田区	ゆきがや薬局	9名	ニコニコ薬局	9名	大田文化の森	108名		
15 世田谷	世田谷区三茶しやれなーど	83名	都立松沢病院	8名	世田谷上馬高齢者集会場	22名	世田谷区管理センター	14名
16 玉川砧	三茶しやれなーどホール オリオン	70名			成城ホール	200名	鳥山区民センタ・会議室	15名
17 渋谷区								
18 中野区	中野サンプラザ	60名			帝京平成大学	400名	中野区産業振興センター	54名
19 杉並区	杉並区産業商工会館	28名	荻窪病院 無菌調剤室	4名	杉並区方南会館	25名		
20 豊島区	豊島区役所会議室	35名					としま産業振興プラザ	89名
21 北区			帝京大学多目的実習室	7名	北とぴあ	22名		
22 荒川区								
23 板橋区			帝京大学多目的実習室	7名	サンシティ集会所	48名		
24 練馬区	区民・産業プラザ	68名	練馬区薬剤師会	11名	南大泉地域包括支援センター	23名	練馬区薬剤師会 会議室	17名
25 足立区	あだち産業センター	31名	たから薬局北千住店	6名	地域包括支援センターはなし	114名	足立区地域包括センター他	102名
26 葛飾区	シンフォニーヒルズかつしか	18名			奥戸包括そんぽの家他	230名	男女平等推進センター	105名
27 江戸川区	平井コミュニティ会館	51名	臨海薬局	20名	なぎさ和楽苑東葛西他	45名		
28 西多摩	青梅市役所・会議室	30名						
29 八王子市	八王子市学園都市センター	38名	八王子医療センター薬局	3名	大横保健福祉センター	67名		
30 日野市	ノムラ薬局本部会議室	12名	ノムラ薬局豊田南店	4名	川北地区センター	23名		
31 多摩市	パルテノン多摩・会議室	33名						
32 稲城市	稲城市地域振興プラザ	16名						
33 町田市	町田市健康福祉会館	26名	南町田病院	4名	堺市民センター他	50名	町田市健康福祉会館	17名
34 狛江市					あいとぴあセンター	30名		
35 調布市	調布市文化会館たづくり	61名	杏林大学医学部付属病院	1名	総合福祉施設ときわぎ	9名		
36 府中市	市民活動センター ブラツツ	37名			地域包括支援センターよつ	36名	府中駅北第2庁舎	36名
37 小金井市			杏林大学医学部付属病院	2名	小金井宮地楽器ホール	100名	小金井市黄金バル・イテ	29名
38 国分寺市								
39 立川市	立川市高松学習館	30名	国立病院災害医療センター	1名	立川市柴崎町集会場	16名	立川市医師会館 会議室	11名
40 昭島市	昭島市医師会館	14名	国立病院災害医療センター	2名	昭島市美堀町会館	34名		
41 国立市	国立市役所・会議室	25名	国立病院災害医療センター	1名	国立市西福祉館	18名		
42 東大和市	東大和市市民会館	97名	東大和病院	10名	東大和市立保健センター	31名		
43 武蔵村山市	市民総合センター会議	12名	武蔵村山病院	4名	大南自治会館 大南サ	35名		
44 武藏野市	西久保コミュニティセンター	39名	杏林大学医学部付属病院	5名	武藏野市八幡町コミュニティ	50名	武藏野市役所 会議室	103名
45 三鷹市	三鷹市薬剤師会	26名	杏林大学病院薬剤部	9名	三鷹市元気創造プラザ	17名		
46 西東京市	西東京市役所田無庁舎	157名						
47 小平市	小平市福祉会館 市民ホール	55名			小平市健康センター	53名	小平市福祉会館	83名
48 清瀬市	清瀬けやきホール	26名	明治薬科大学無菌調剤室	9名	清瀬市生涯学習センター	63名		
49 東村山市			多摩北部医療センター	12名	久米川町憩いの家	83名		
50 東久留米市								

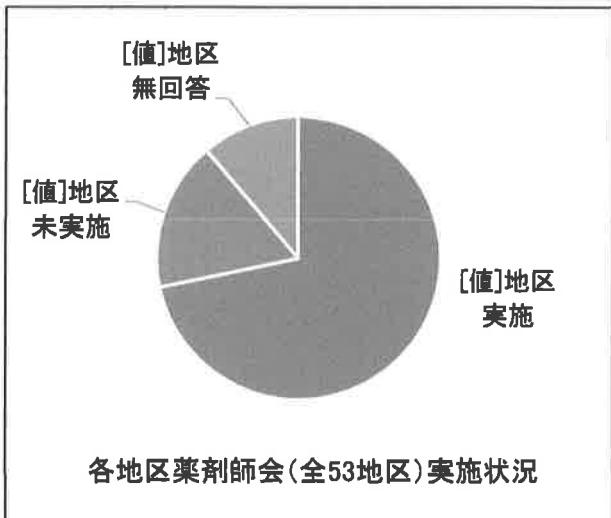
## 平成30年度 医薬品・情報管理センター 利用実績

	情 報 業 務	備蓄医薬品 品目数	利用薬局延数 年累計	利用薬局実数 年累計	取扱品目数 年累計
1 豊島区	実施 (1,965)	1,768	3,066	702	15,946
2 大田区	実施 (実績不明)	0			
3 立川地区	実施 (実績不明)	0			
4 江戸川区	実施 (実績不明)	0			
5 荒川区	実施 (実績不明)	0			
6 武蔵野	実施 (262)	1,873	8,912	576	22,905
7 杉並区	実施 (930)	1,444	9,052	1,377	27,712
8 練馬区	実施 (92)	1,533	13,999	1,942	42,158
9 日野	実施 (実績不明)	0			
10 世田谷区	実施 (実績不明)	3,450	18,171	1,355	126,962
11 中野区	実施 (実績不明)	680	1,407	413	3,670
12 北区	実施 (実績不明)	1,219	4,129	920	12,014
13 三鷹地区	実施 (48)	2,331	9,291	595	26,178
14 目黒区	実施 (実績不明)	2,195	4,403	608	13,539
15 港区	実施 (実績不明)	0			
16 品川区	実施 (実績不明)	339	1,324	411	3,755
17 町田地区	実施 (実績不明)	0			
18 千代田区	実施 (実績不明)	0			
19 文京区	実施 (実績不明)	0			
20 板橋区	実施 (221)	1,718	16,419	1,398	47,252
21 八王子	実施 (実績不明)	0			
22 江東区	実施 (168)	1,068	1,163	392	2,032
23 渋谷区	実施 (実績不明)	0			
24 台東区	実施 (実数不明)	0			
25 葛飾区	実施 (実績不明)	0			
26 西武地区	実施 (実績不明)	179	378	278	610
27 墨田区	実施 (実績不明)	887	5,771	817	4,836
28 新宿区	実施 (12)	1,200	1,596	454	2,567
29 中央区	実施 (実績不明)	0			
30 足立区	実施 (1,778)	1,662	1,344	282	1,728
31 京王地区	実施 (実績不明)	0			
32 西多摩地	実施 (実績不明)	0			
33 多摩中央	実施 (実績不明)	0			
合 計		23,546	100,425	12,520	353,864

## 【資料 5】

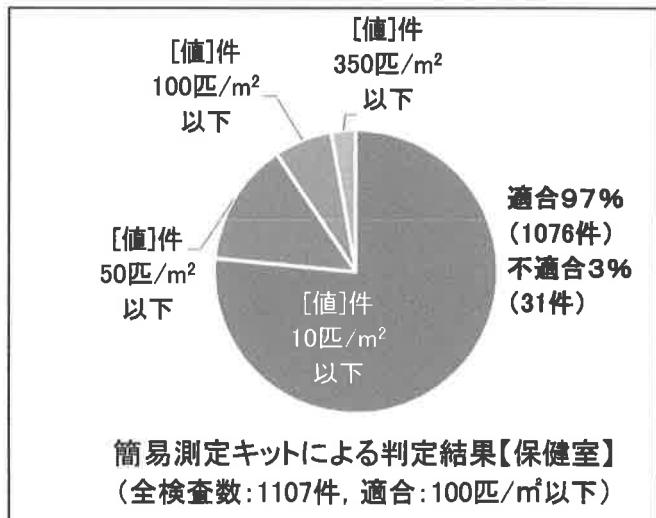
### 学校環境衛生基準における学校薬剤師職務等に関する実態調査 「平成 29 年度 ダニ・ダニアレルゲン検査」結果報告

\* 各地区薬剤師会の検査の実施状況



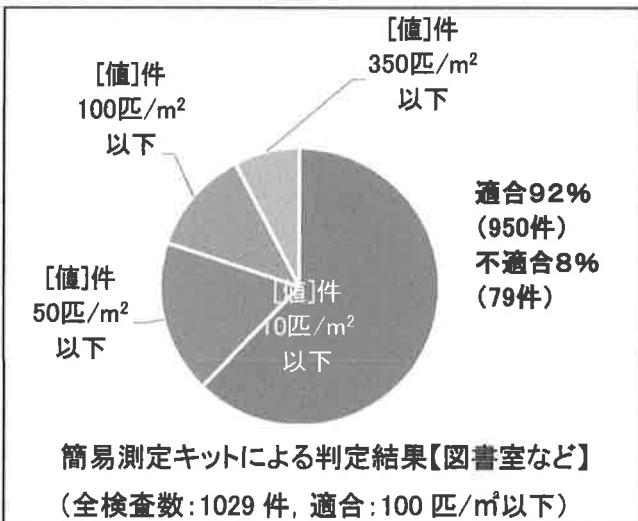
各地区薬剤師会(全53地区)実施状況

\* 検査場所【保健室】



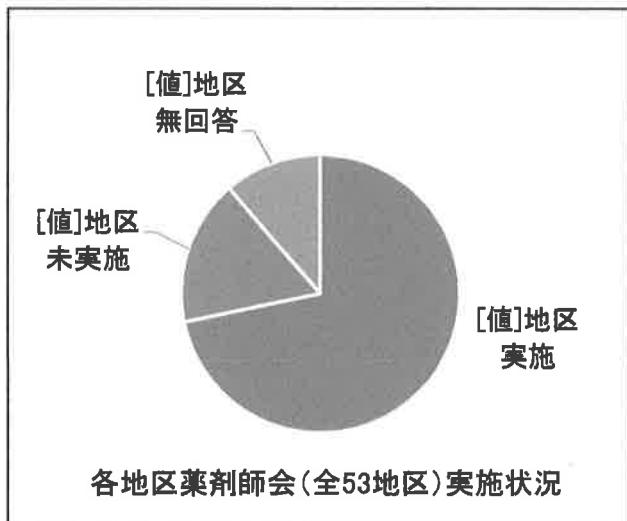
簡易測定キットによる判定結果【保健室】  
(全検査数:1107件、適合:100匹/m<sup>2</sup>以下)

\* 検査場所【図書室 体育館 パソコン室 他】



簡易測定キットによる判定結果【図書室など】  
(全検査数:1029 件、適合:100 匹/m<sup>2</sup>以下)

\* 指導・助言の実施状況



各地区薬剤師会(全53地区)実施状況